

極く、簡単な應接室であつたらテーブルと椅子の二三脚位でも間に合ふが、之れだけでは何ん  
となくもの足らなく感ずるから、別に一寸した柵り柵か本柵でも置きたいところであらう。

それから更に餘裕のある家庭でもあつたならば、それに相應した安樂椅子または眩掛椅子、  
或は長椅子などの必要も起つて來ることだらう。

### 應接間の一隅

『STUDIO』誌所載の某家應接間の一隅の寫眞である。

美しいマホガニーの家且裝飾をはじめ、簡明な壁や床の仕上げに至るまで、一つとしていやみ  
のない、如何にも上品な趣向になつたものである。

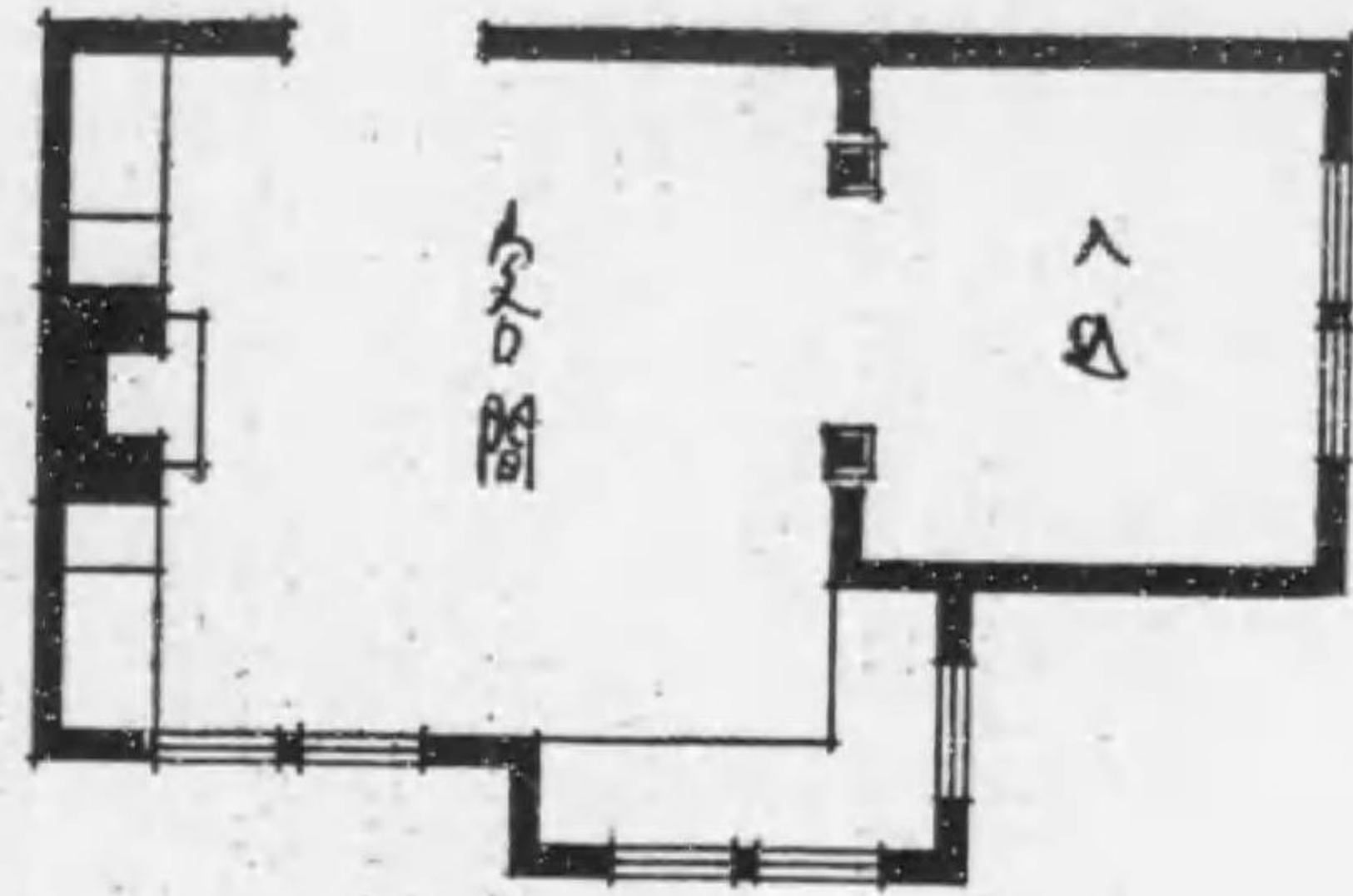
### 親しみのある客間の設計

應接間のお話に引き續き、客間の設備に關して一通り述べて見やう。

一般に之れまでの日本住宅の習慣として、何れの家庭を見てもさうだが、此の客間となると何  
をさし措いても第一番に飾り立てた立派なものを具へねばならないかのやうに考へられて居つた  
やうであるが、之れは一面客を款待すると云ふ意味に於て、決して悪いと云ふ譯ではなく、寧ろ  
我が國民の美德の一つとして大いに賞揚して然る可きことではあるが、たゞ餘りに此の客間に重  
きを置き過ぎて、それがために肝心な家族達の起居する場所迄が、いつかそつち除けにされて了  
ふと云つたやうであつては、住宅と云ふものゝ本來の目的にも反することであつて、此の點は將  
來客間の設計に當る者の特に一考を要すべき點ではないかと思ふ。がしかし、此の場合一概に住  
宅の目的が居住者のために在ると云つたところで、何も接客の意義を根本から覆へして客間を極  
端に虐待して宜いと云ふのでは勿論なく、要するに問題は從來のやうな所謂居間偏輕の弊を改め  
て各自が分に應じた方法を以て、それぞれ接待なり、また設備なりをして欲しいと思ふのである。

### 位 置

元々此の客間の目的は應接間や何かと異つて、短時間の對談や用談を爲すべきところではなく、



入込をとつた客間。  
 暖爐の左右と出窓を利用して作りつけのシートが設けられてある。

主客共に打ち寛ろいで時には長時間に亘つて談話を交はしたり、交情を温めたりすべきところであつて、言はゞ一つの社文的な意味から設けられるべき性質のものであるから、位置の如きも玄關近くよりは稍々奥まつた努めて落ち着いた場所が望ましく、出来得るなら一方にテレスか小庭でも控へて設けて欲しいところであらう。

### 方位

理想としては勿論東か南向きを欲するが、都合に依つて西とか北に面する場合は、窓にもつて行つてオウニングをつけるとか、または特に日除け用としての植樹をなすとか、或は内部の飾り方、色の配合などに依つてそれ／＼適當な調和法を講じたなら、必ずしも無



客間に附屬した入込

理からに良方位を欲せずとも、案外結果の宜い客間が得られやうかと思ふ。

### 室の大きさ

贅澤を云つたら此の客間の廣さなどは際限がないが、先づ普通の客間としての目的に添ふ程度のものであるとして、四メートルに五メートル角乃至は五メートル角内外の廣さがあつたならば、別にちよつとしたアルコーブ(入込)のやうなものでもあつて其處にファイア・ブレースでも設備されてあつたならば、一層申し分のないものとならう。

### 室内裝飾

客間の裝飾と云つても、勿論居住者の生活程度とか或は交際の範圍に應じて已すと裝飾の仕方

も異つてくるだらうが、何れにしても色々な階級や色々な趣味を持つた人達が入出するところであるから、なるべく其れ等の人々に愉快な感じを與へるやうに心掛けて、客間に於ける數時間乃至數十分間の印象を出來得る限り愉快なものにして欲しいものだと思ふ。

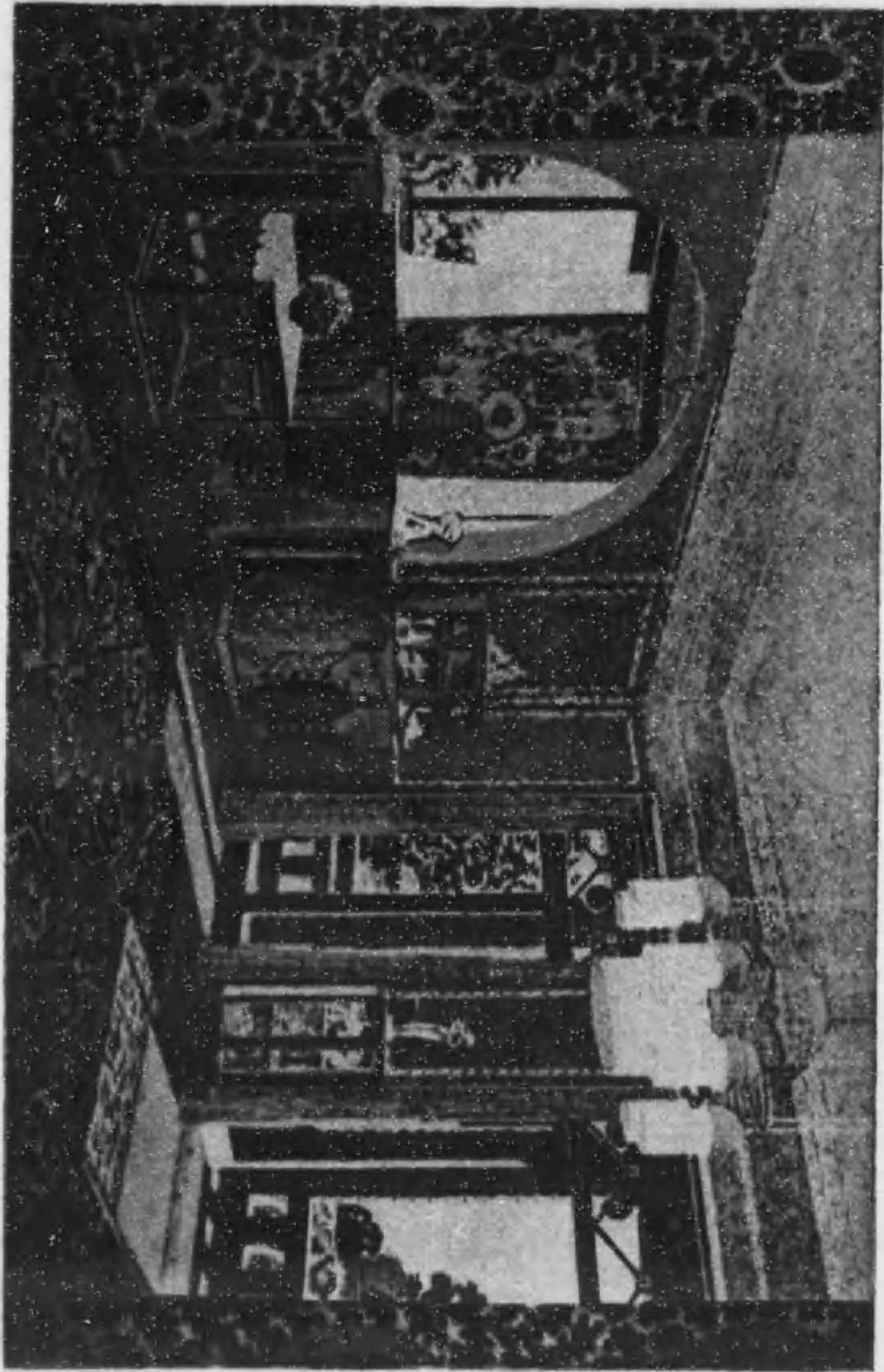
## 家具

大體に於て此の家具設備は應接間のものと同じに考へて大した差異はないが、たゞ餘り堅い感じのする家具は感心しない。なるべく温か味のあるそして落ち着いた据はり具合の宜いものを選ぶやうにしたい。

詳しくは次の挿圖「美しき客間」について見られたい。

## 美しき客間

ダラムシュタットのヤコブ・クルク氏の設計になるところの、マインツのルドウイヒ・マイヤー氏の住宅にある居間を兼ねた客間の配景圖である。



色や形に何處やら東洋的オリエンタルな感じのある極めて明るい室である。東洋的と云つても、波斯あたりの西亞細亞の感じをよほど多く採り入れたものであらう。見るからに美しい客間である。左手の入込を利用して、多分客を迎へるために設けられたものであらう、いくつかに分たれた造りつけのシートがあり、また瀟洒なテーブルや意匠の凝つた置戸棚などが配されてある。廣間の一方は大きなフレンチ・ドアに依つて仕切られ、其處から美しい花園を望むためのヴェランダへ下り立つやうになつてゐる。

此のプレートを拜借願つた建築相談所長の中村鎮氏の御好意を嬉しく思ふ。

### 完備した臺所の話

「良き臺所は金の指輪に嵌められたダイヤモンド。臺所の仕事はその設備の如何に依つて煩はしいレイボアともなればウオークともなりませう。」

何かの雑誌にこんな文句が書かれてあつたやうに記憶する。……  
近頃、能率的家庭建築、または經濟的家庭建築と云つた風な問題が、一般に非常な注意を以て

考へられるやうになつて来たやうである。  
殊にその中でも臺所問題に就いては、かなり進歩した研究や工夫が施されつゝあるやうに見受けられる。

云ふ迄もなく、此の臺所は我々の生活上一日も缺くことの出来ない、大切な食物の調理所として、終日間断なく使用せられ、謂はゞ家庭に於ける最も重要な位置を占むるもので、而かも、その設備の良否は直ちに我々の衛生上は勿論のこと、一家の經濟上にも非常な影響を及すものであるから、従つてその設計及び設備に就いては、充分の研究と注意とを必要とする。

### 位置

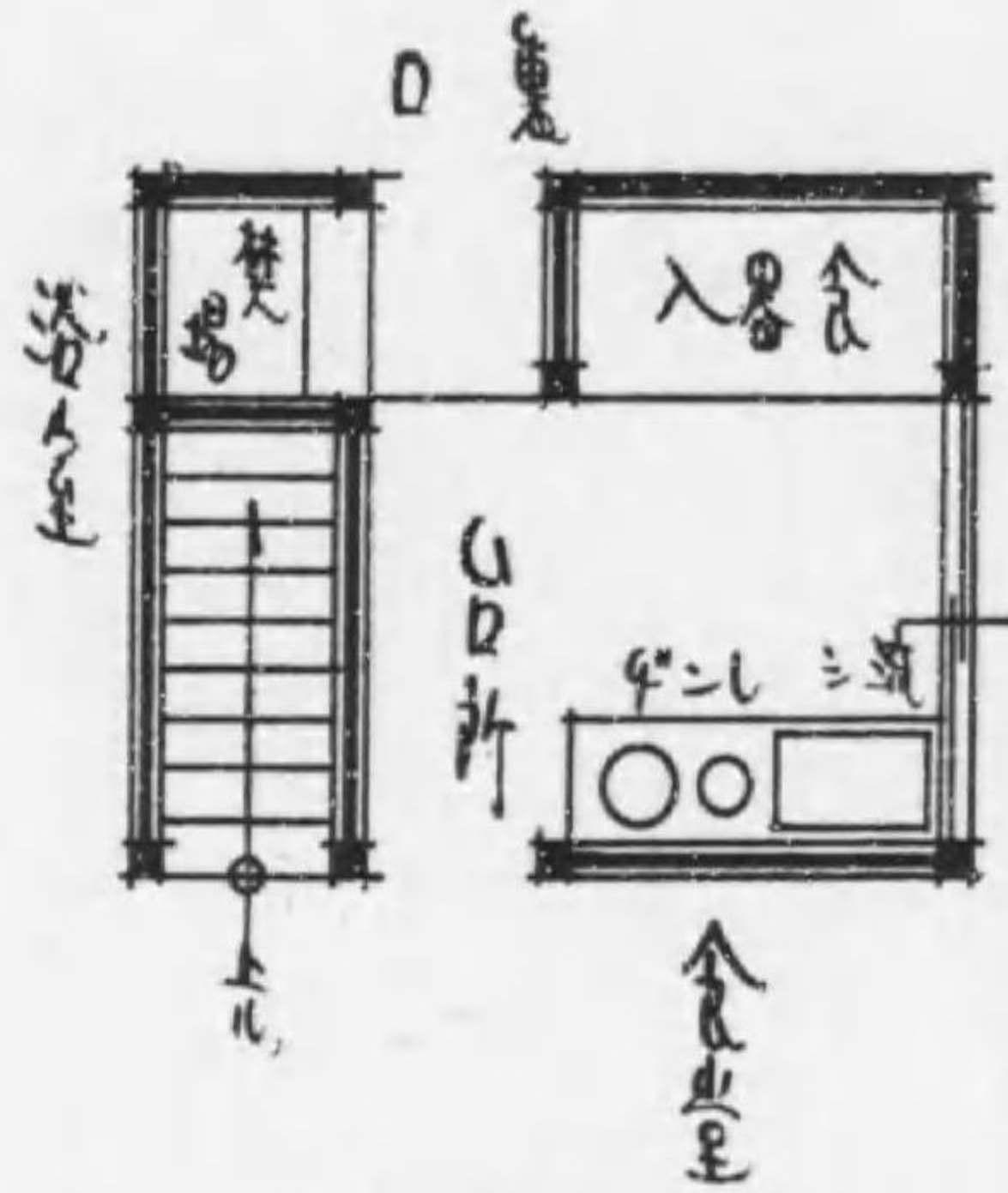
臺所の位置の定め方に就いては、何よりも便利のよいことを以て原則とする。

即ち、外部よりは常に御用聞などが出入するところであるから、勝手口などにはなるべく便利な位置に置かねばならない。

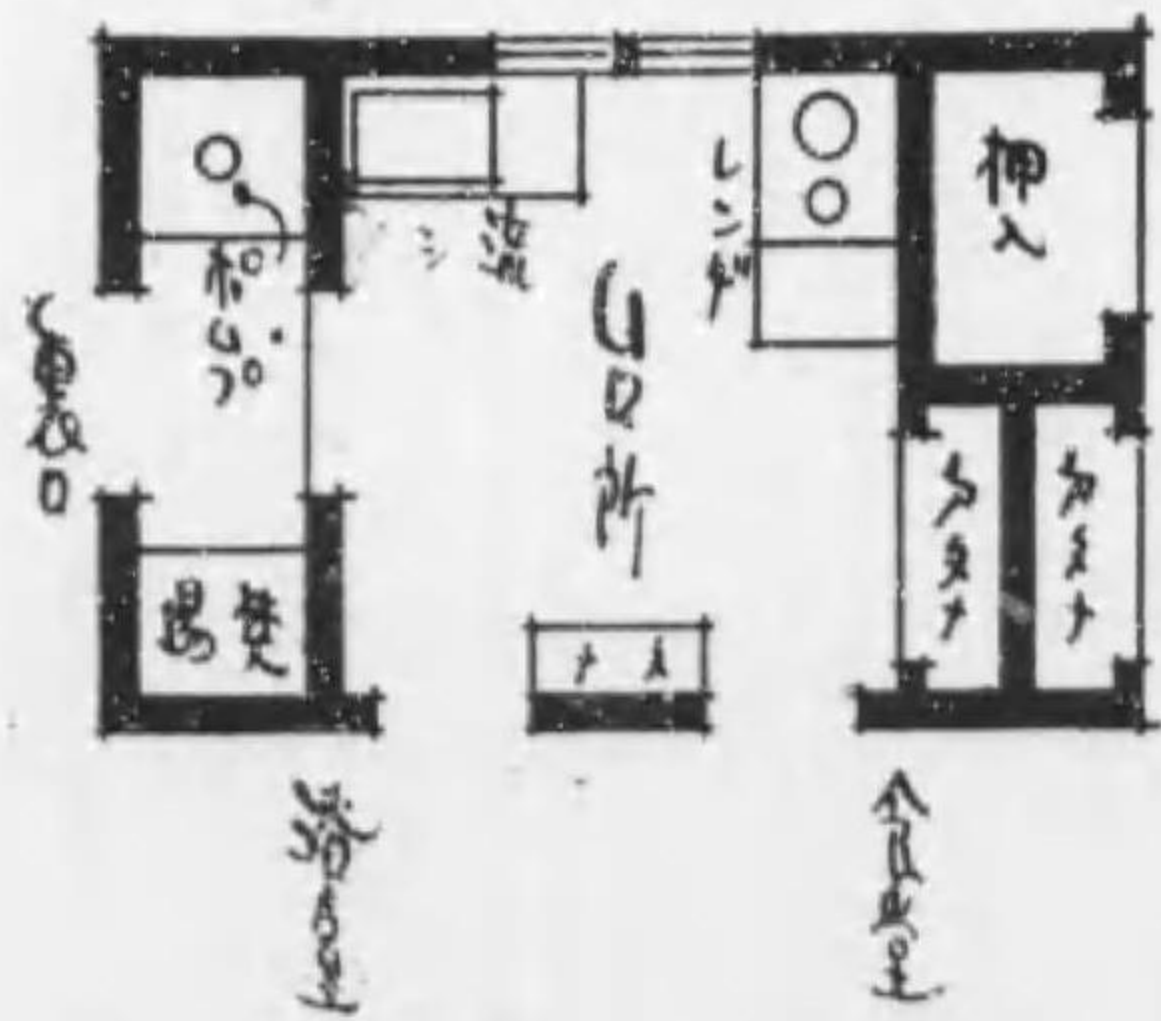
内部にあつては第一に配膳室または食堂、食堂のない家では居間と云つた風な室と、是非共直接の連絡をとらねばならない。而して尙出來得るなら女中室、浴室等に對しても相等具合の良

のを欲する。

と云つて、客間や應接間などに餘り接近し過ぎて、調理の香がそれ等の方へ及すやうなことが



三メートル角の臺所。階段下を利用して風呂の焚場がある。



三メートルに四メートル角の臺所に土間と風呂の焚場とランプ装置のある一例。

あつても困るから、此の點は豫め注意して置かねばならない。

### 方位



しいことである。

窓はすべて硝子窓が良く、出来得れば二方光線とするか、さもなくば窓のほかに更に トランプライト 天窓でも設けて、充分光線を導きたい。

うす暗い昔し流の臺所でさぐりく流元をするやうでは不愉快不衛生も甚しからう。

### 換氣と通風

臺所は兎角濕氣易い關係から、換氣と通風の設備は充分完全にして、常に室内が乾燥するやうな方法を講じて置きたい。

それには天井の上部に越屋根を造るか、周囲の壁面に換氣孔を設けるやうにするのが有効である。

### 床と壁

常に清潔を保つといふ上から、すべての點に亘つて掃除の行き届くやうにすることは、臺所の設計に於て是非共考へ置くべき大切な要件の一つである。

従つて、床及び壁なども勿論耐水のものではなければならない。

理想としては床も壁も白色のタイル張などが最も適してゐる。

### 台所用器具とその配置

臺所に於ける衛生及び經濟的施設に關する問題の一つとして、臺所用器具のこと、及びその具へ付け方に就いても一と通り考へて置かねばならない。

第一に臺所に無くてはならぬものは、流しと竈である。

流しは勿論陶器製のものに越すことはない。そして、出来得るならば二つに仕切られたものがよく、その一つは湯水を以ての洗滌用に充て、石鹼、曹達等を具へるやうにし、他の一つは清浄なすすぎ水を具へると云つた風な装置のものでありたい。

炊事用竈としては瓦斯、電気、石炭等燃料に依つていろ／＼異なるが、簡單で便利で、且つ清潔である點では、勿論瓦斯、電気應用の竈であるが、燃料の濫費と云ふことを、餘程考慮しないと薪炭装置の場合に比較して大分經費の高いものにつく。

器具その他の配置は大體真中に一人二人が樂に働けるやうな面積を置いて、三方か四方に順次



臺所用備付け器具の圖、此の圖には現はされてないが、瓦斯臺は反對側の壁際に添ふて置かれてある筈である。

配置するが宜い。

備付け品としての主なるものは流し、調理臺、露切り臺、竈、配膳臺、食器入、臺所用卓子、椅子等。要れば冷蔵庫の設備なども欲しからう。

#### 台所と配膳

出来得るなら臺所と食堂または居間との間に、さして面積の大きなものでなくとも宜いから、配膳室があるといふ。

配膳室があると調理中に臺所の中が全る見えになつたり、調理の

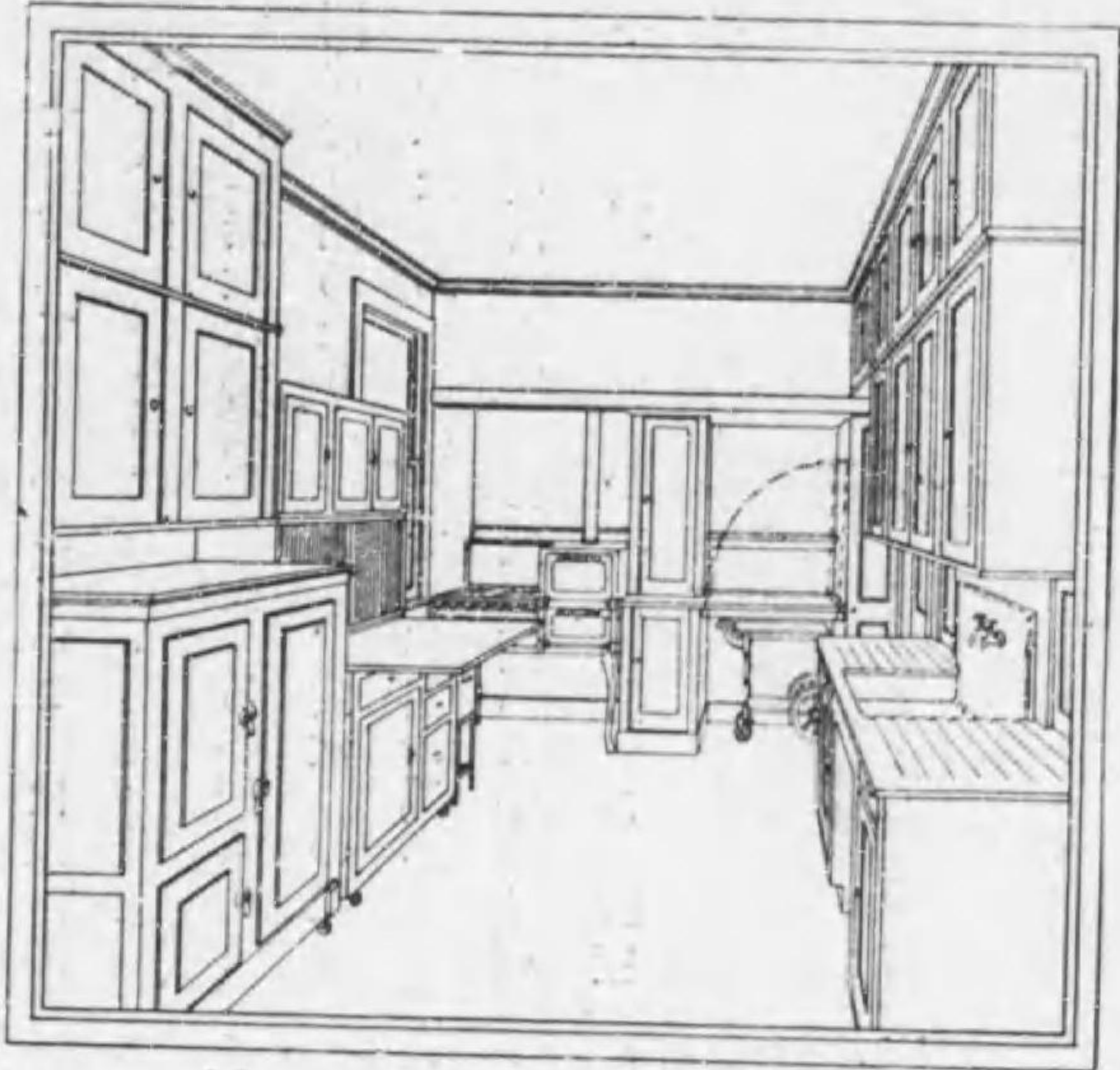
香が居間や客間の方へ襲來する心配もなく、食器やその他の整頓上にも、また能率本位な立場から云つてもすべてに都合のよいことは云ふ迄もない。

例へば、食事時を前に慌てゝ器具を破損したり、手廻りのものが見つからなかつたりして、それがために無駄な時間を空費する心配もなく、次に食事のお給仕をするにしても、一々臺所の扉を開けたり閉めたりせずとも、食堂との境に適當な大きさのハツチでもつけて置けば、臺所で料理の出来たものは、何時でも其處の棚から食卓へ移すことが出来、食事後の後仕末にしても、汚れた食器類は前と同様に此の棚から手早く臺所に運び去ることが出来ると云つたやうな譯で、此の一例に依つて見ても、臺所に對する配膳室と云ふものが、何んなにか價值のあるものかゞ知れやう。

#### 模範的なアメリカの台所

女中を置かない四五人位の家庭で、炊事萬端を主婦一人の手で手軽にやつて行かれるやうな所謂小家庭向きな小臺所の模範的設計を一つ御紹介しやう。





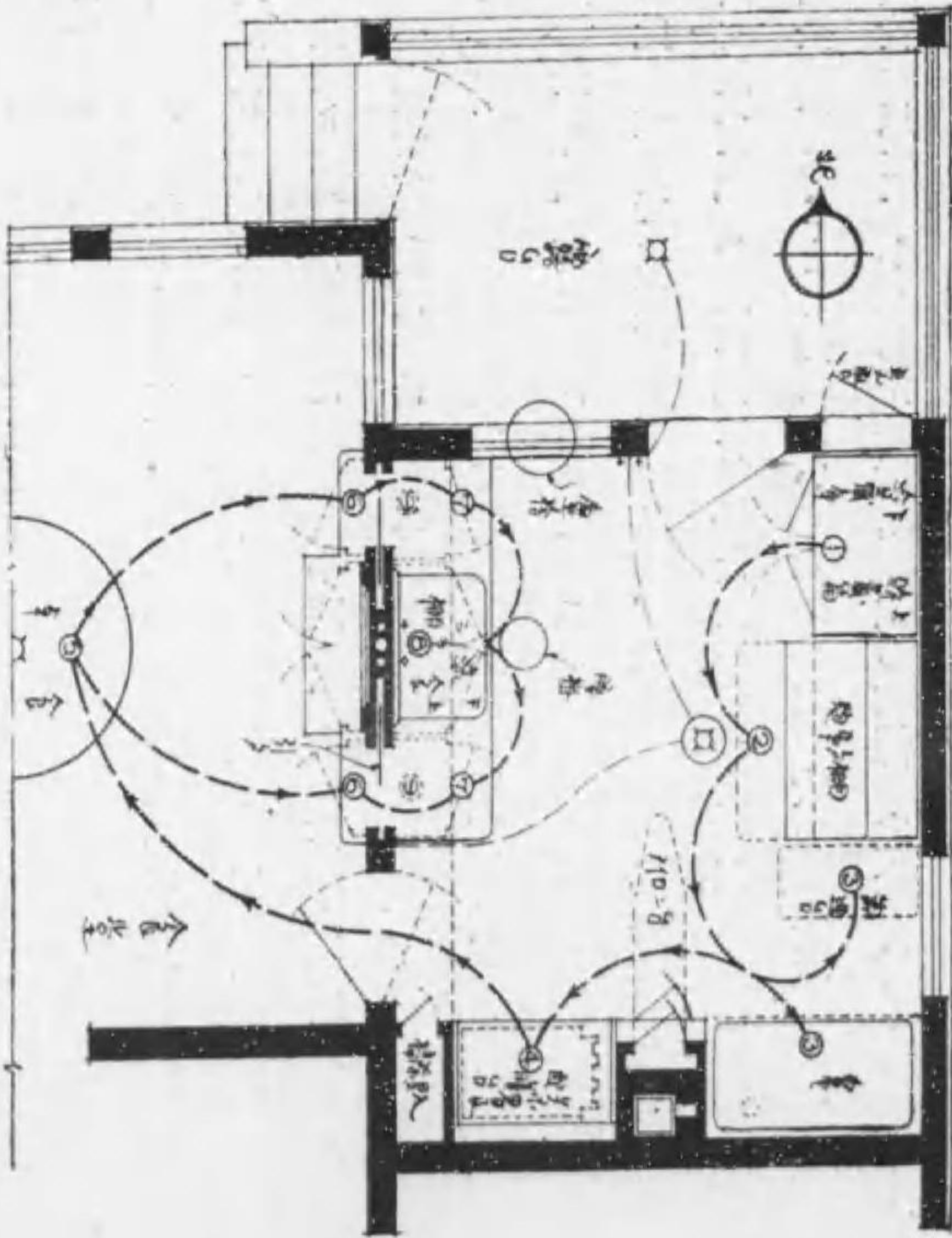
模範的なアメリカの臺所

圖は昨年米國の Hosi & Manufacturing Co. で催された懸賞圖案の一等に選ばれたモデル・キツチエンである。

御覽の通りさすがは米國式で、時間や勞力の節約から、主婦一人が真中に立てば、何から何まで手早く仕事を進められるやうに大變便利よく考察された臺所である。

圖中(平面參照)の虚線は、大體仕事の手順や、材料や器具の取扱ひ順序を現はしたもので、先づ勝手口から持ち込まれた材料は冷蔵庫に入れられ、流しで洗はれて次に調理臺に移り、竈で煮られ配膳臺に上ると云ふ風に恰かも時計の針の廻轉するやうに順次左から右へと廻つて行くやうに仕組

模範的なアメリカの臺所



まれたものである。

南面の壁際に見られる脚部の小さな車は、多分料理の整つた皿や、茶道具一切を揃へて食堂へ運ぶためのものであらう。

車の左手に取付けられたアイロン臺、それから車の上部に延べられた配膳臺も、共に蝶番仕掛けで、不用の時は何れも壁に疊込んで置くやうに仕組まれてある。

臺所と食堂の仕切りに設けられた二つの小窓は、食事が済んで汚れた皿やホークを流し場、水切り場、置場等へ運ぶに便利なためである。

そして、洗はれた食器は乾くに從つて流しの上の食器棚に納めると云ふ都合になる。

四面の壁も無駄無しに、巧に利用されてある。

臺所の設計も此の位までに完備してゐると、全く女中の必要はあるまい。

不完全な臺所を造つて、それが爲に餘分な女中を一人も二人も置いてるやうな経費があり乍ら臺所の設備を完全にするを知らない日本の人達の大いに参考とすべき設計であらう。

女中を置く経費を以て、かうした臺所其の他の設備の完全を計ること——それは遙かに經濟的であり、意義あることであらう。

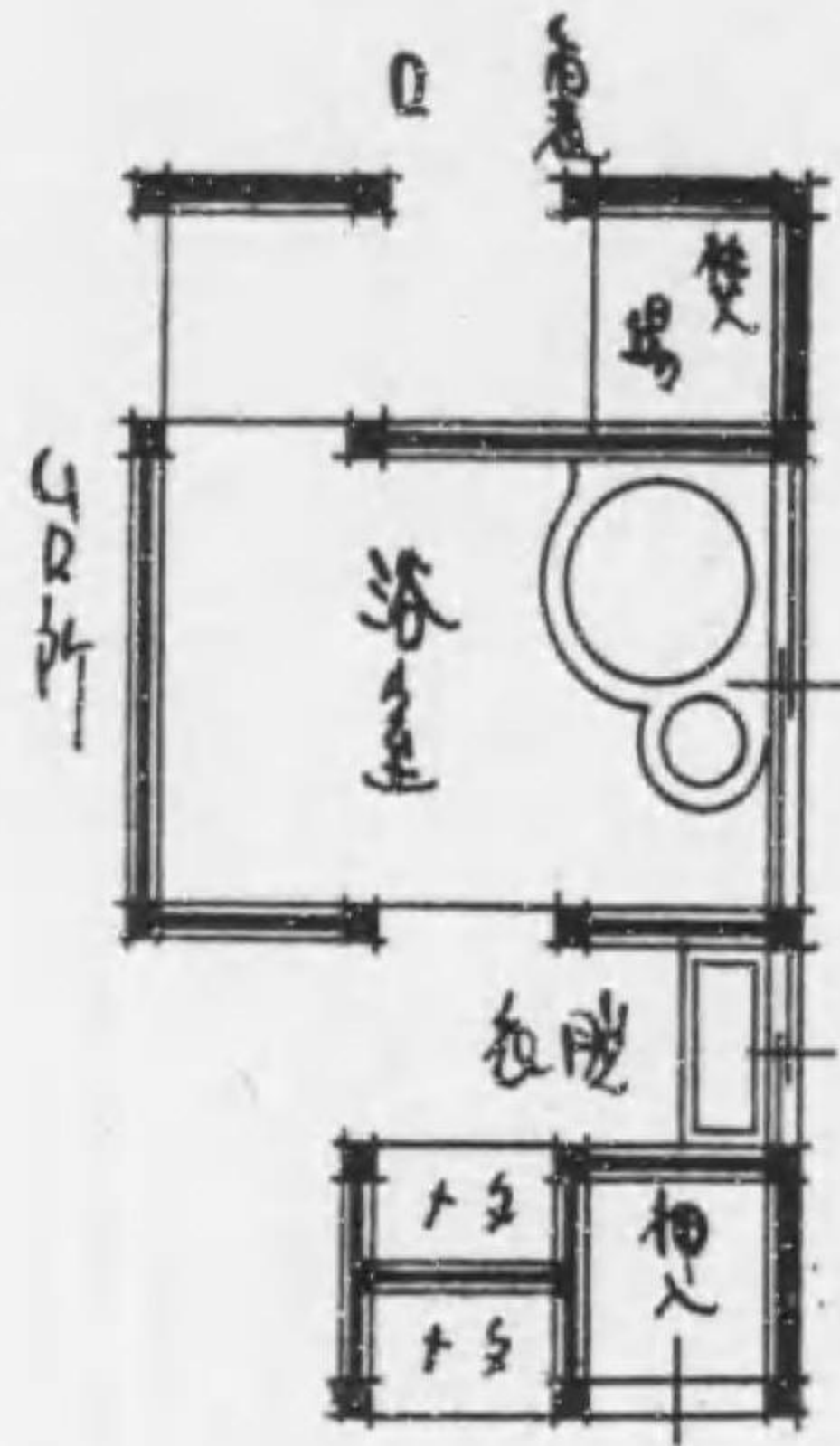
### 衛生的な浴室の設計

何れの家庭でもさうだが、この浴室とか、あるひは便所とか云ふと、兎角邪魔物扱ひにして、さほど重要視して居らないやうであるが、これは甚だ考への間違つた話で、かう云ふ特殊なものとは殊更注意しか上にも尙注意して、なるべく批難のない、充分完備したものを造るやうにしたいものだと思ふ。

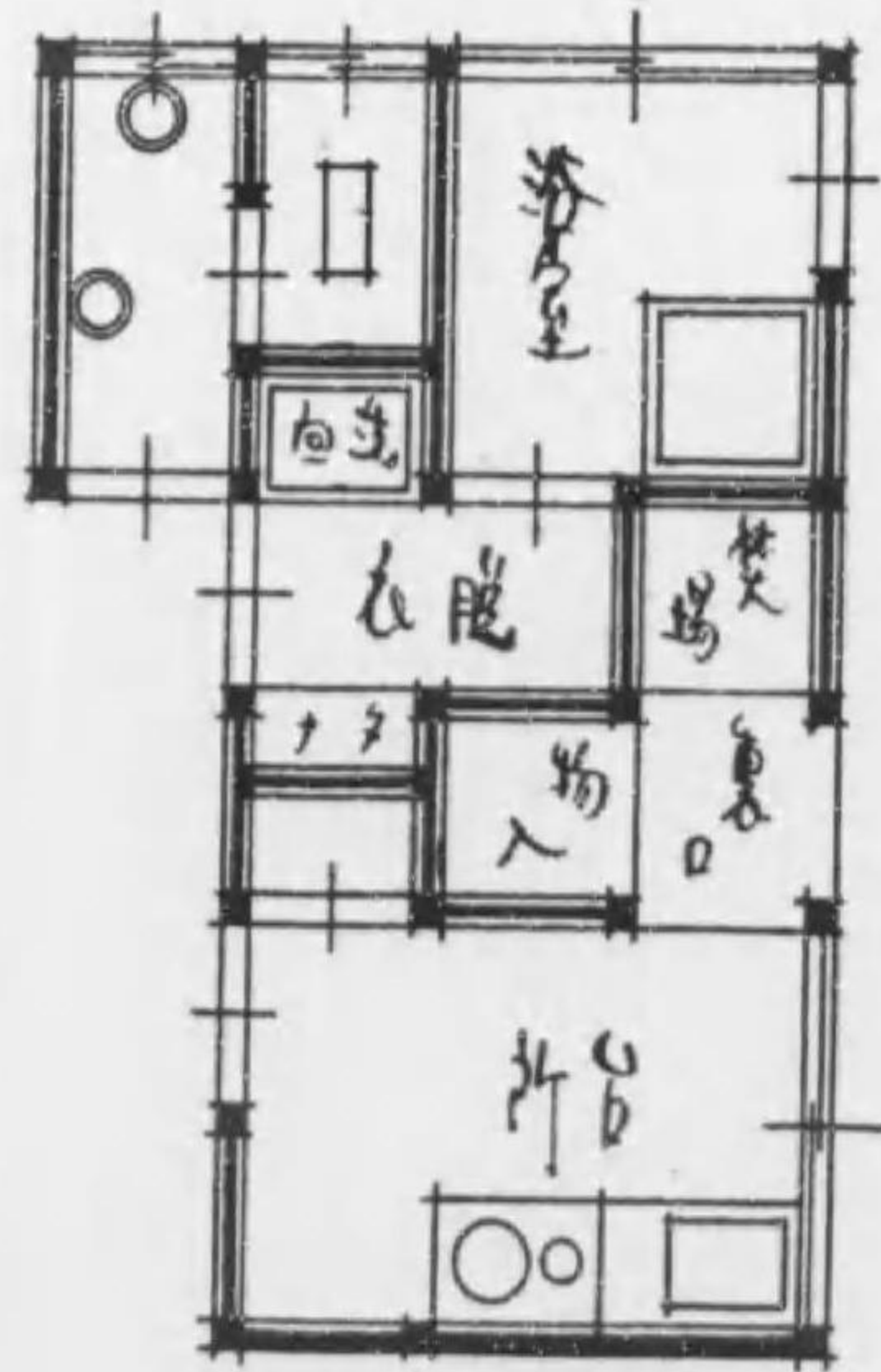
### 位置

浴室の位置は外國などの例に依ると、先づ二階建ならば多くは階上の寢室に接近して設けられるのが普通だが、我が國ではまだ肝心な下水道の設備さへ完全してゐないやうな状態であるから、従つてこの浴室を設くるに當つても、第一に汚水の排泄からして考へてかゝらねばならないと云ふやうな始末で、目下のところ倒底さう云ふやうな望み通りな注文は少しく無理である。

で、先づ今日の普通の住宅としては、さしあたり臺所に隣接して設けるのが一番便利で簡単な方法



長州風呂の一例。後前は洗面所を兼ねた脱衣場になり、風呂の焚口は裏口を入つた直ぐ左手に設けられることになる。



小住宅向き据風呂の一案。臺所、便所等の關係に就いても注意せられたい。

であつて、云ふ迄もなくこの方法は、女中達や夫人方が炊事の傍はら風呂焚きをするに云つた場合などに、至極手軽でもあり、手数も省け、且つ汚水の處分法も比較的簡単に済せると云ふ點にも都合がよい。

尙、此のほかには浴室の性質として、化粧室や便所などとの連絡に就いても相當考へて置く必要がある。化粧室は都合に依つては脱衣所を少しく擴めにとつて、双方兼て使用出来るやうにしたものでも差支へない。

方位

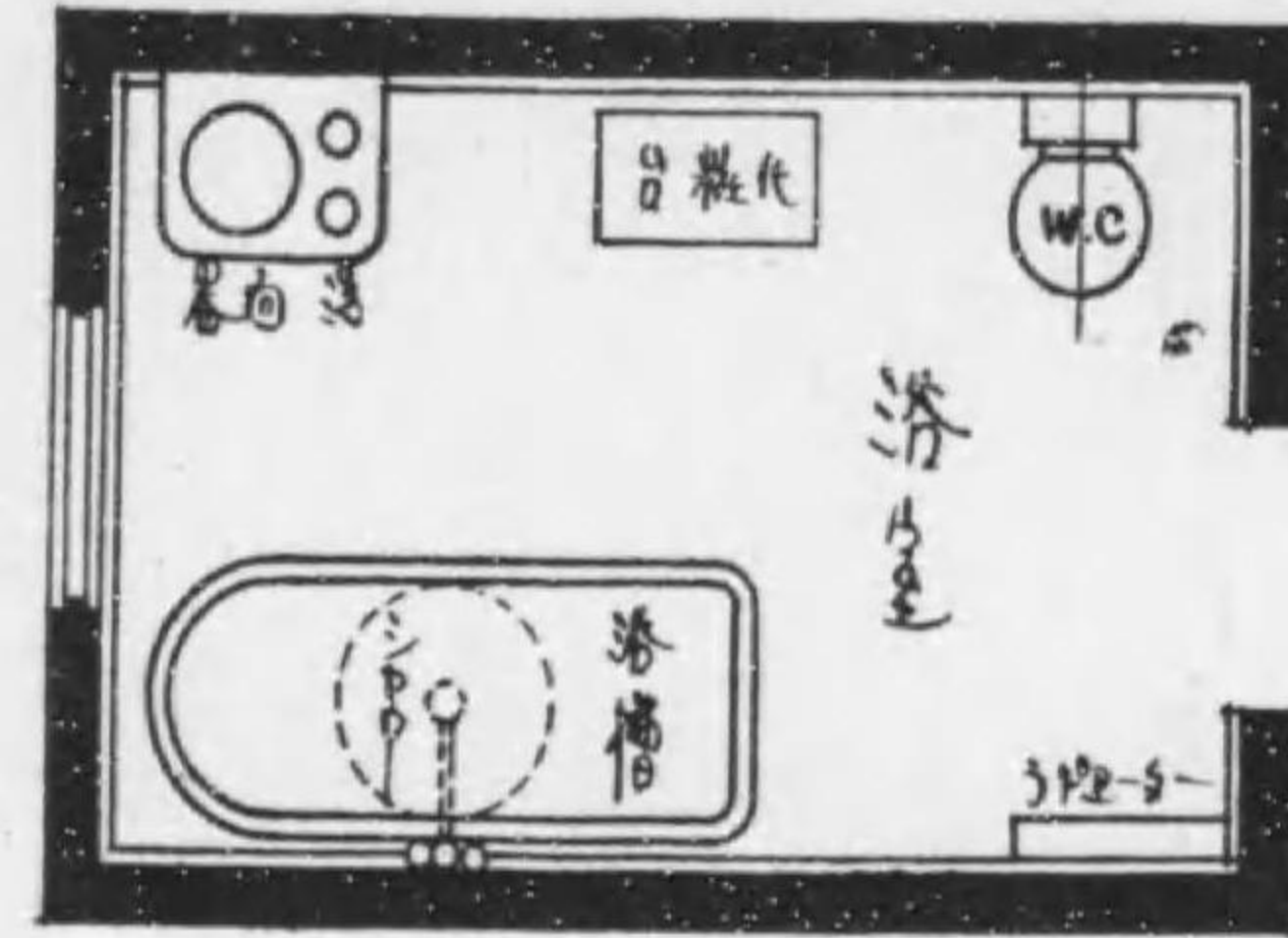
浴室の方位は左程問題にはならないが、さりとて、北側の一日中ろくに陽も當らないところでも感心出来ない。

此處は兎角周囲が濕氣たがるところであるから、一日に一回は必ず日光の當るところを選んで充分乾燥の方法をとるやうにしたい。

理想としては、東かまたは東北に面せしめるのを宜しとする。

浴室の大きさ

極く、小ぢんまりした浴室なら疊三帳敷程度の廣さで、この内一帖を板張として脱衣所に宛て残りの部分を叩きかタイル敷にして、浴槽を据ゑたり、流し場を使用して相當用は足りるが、少



洋風浴室の一例。



同じく洋風浴室の例。浴槽の外に Sitz Bath (坐浴) の備へがある。

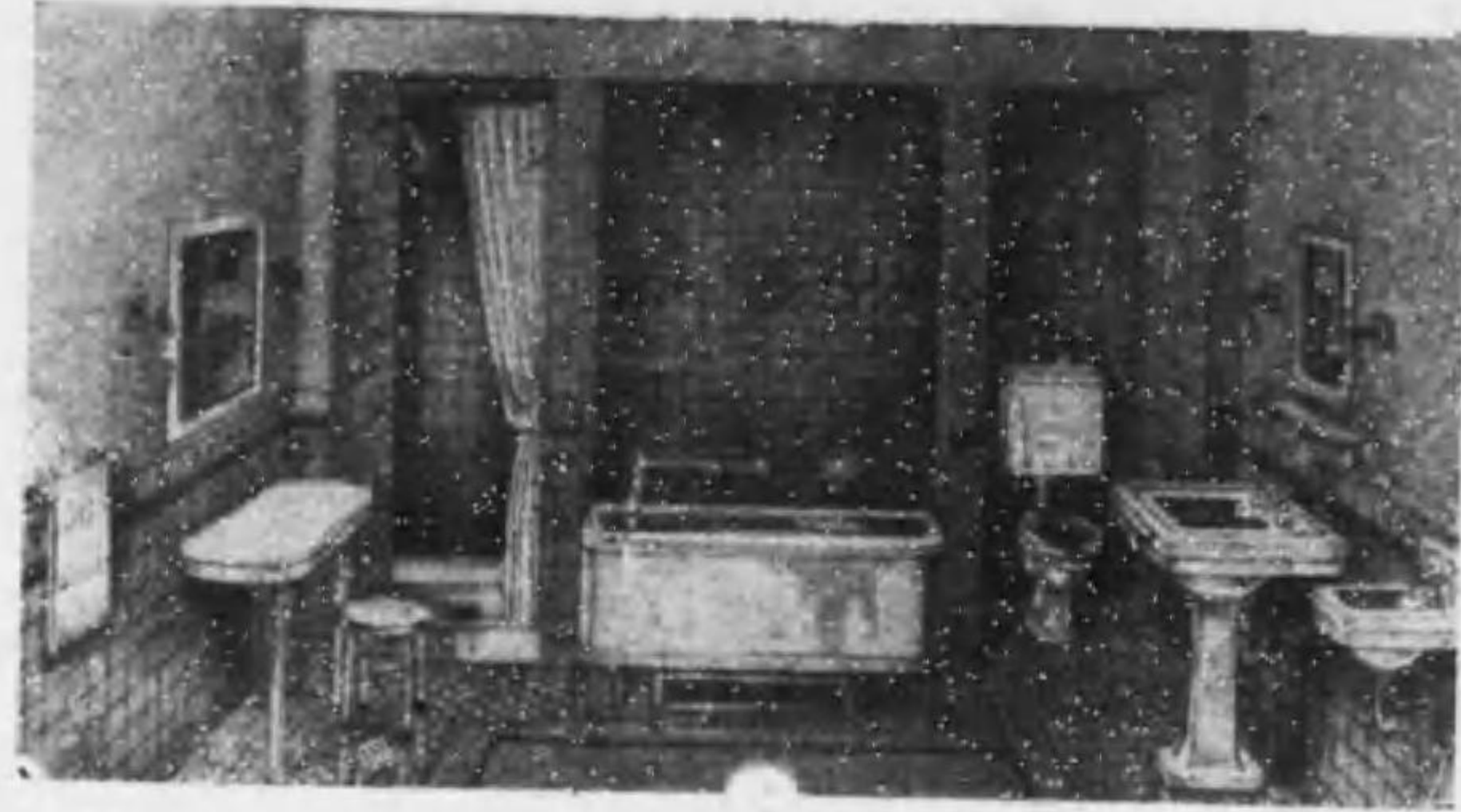
しくゆつくりしたものを造らうと思へば、浴室だけでも二メートルに三メートル角位の廣さのものが必要であり、従つて脱衣所や化粧室もそれ相當の廣さのものを設備したくなる。

**採光**  
浴室の明るいのは何よりで、出來得るなら二方光線としたい。

**換氣**  
浴室の設備に是非忘れてはならないものは、完備した換氣装置の必要なことである。これが不完全であると、兎角湯氣が室内に立籠り勝で、のみならず、冬季など天井裏から冷めたい雫が垂れて、まことに不愉快を感ずることが珍しくない。  
通常換氣装置としては、天井上に越屋根を設けるか、あるひは簡單なものとしては窓の一部(なるべく上部に)を廻轉式にしたものでも宜し。

### 湯のいろく

175  
(い) 据ゑ風呂。檜か杉の厚板で造られたもの。新しい木の香をなつかしみ乍ら一風呂あびる氣分はまた格別か。



突き當りの入込になつた中央が浴槽、右が便器、左がシャワーで、手前、左右の壁際に具へられたのが、手洗と洗面器とそれから化粧臺である。此のほかに壁付電燈、壁付鏡、タオル掛なども見られる。完備した浴室の設計ではないか。

(ろ)長州風呂 燃料の經濟なのと、沸きの早いのと冷めない點では保險つき。構造は湯槽が鑄鐵製で、湯槽と周圍の煉瓦との中間に煙道が廻されてある。

材料が鐵と煉瓦とセメントだから据ゑる風呂のやうに直きに腐れる心配も少ない。

(は)洋式風呂 思ふやうに出來るとすれば誰れでも、自分で加減が出來て、而かも何時でも入れる洋式風呂を好むであらう。

風呂の湯は臺所で使ふ湯と同じボイラーで沸したものを送る。

### 浴室の構造

浴室の構造としては、第一に耐水的と云ふことを

考へねばならない。殊に木造の場合はこの點に餘程注意しないと、兎角失敗を招くことがある。

床は叩きか、若くはタイル敷にして、上に簀の子を置き、同時に周圍の壁も水のかゝる高さ迄はモルタルで塗るかまたはタイル張りにして、常に洗滌し得られるやうにして置かねばならない。

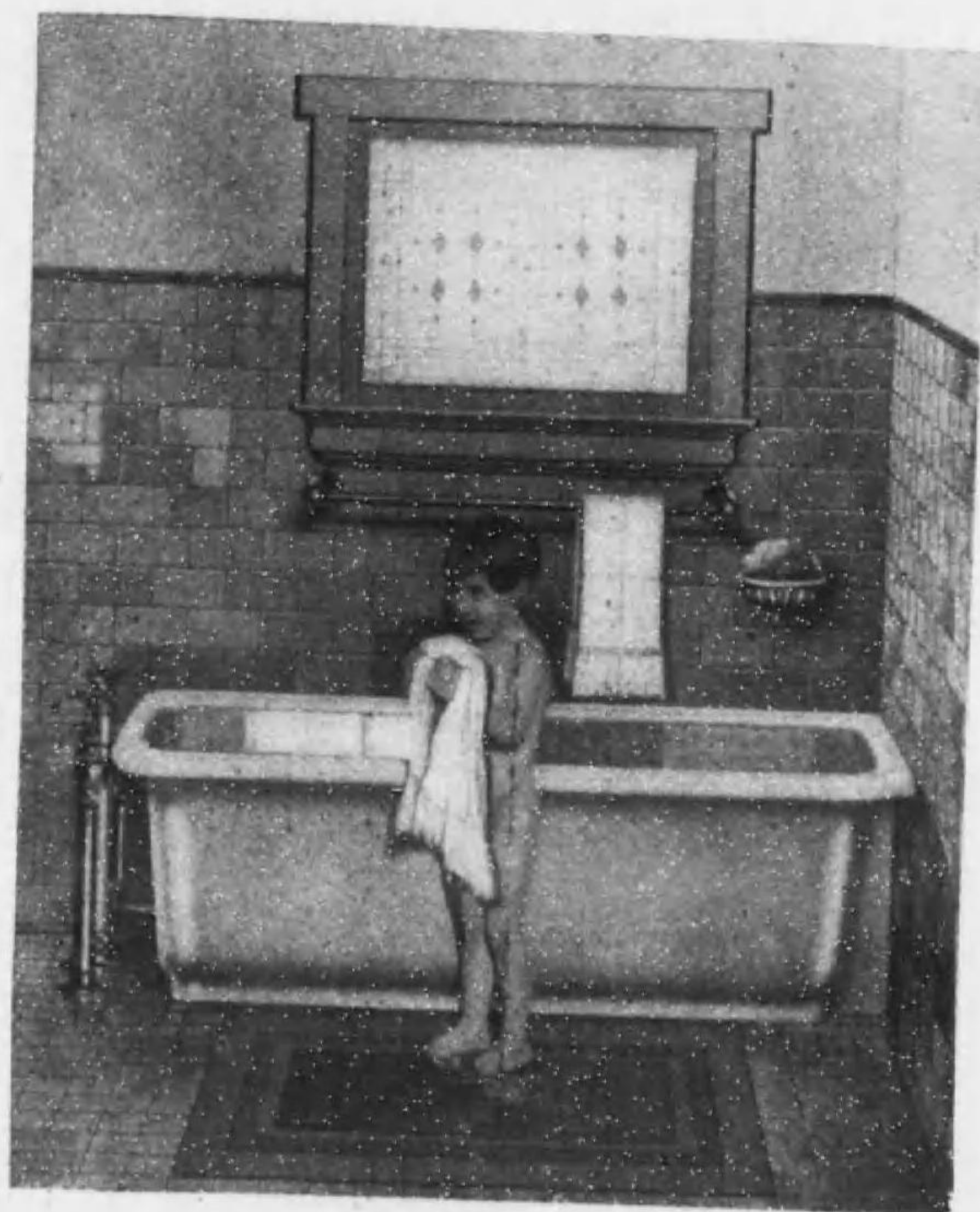
天井は漆喰塗よりも板張にしてペンキでも塗つた方が宜く、板の張方も平面よりは屋根の勾配に倣つて傾斜して張つた方が湯氣の雫の落ちる憂がなくて宜い。

次に浴槽の焚口であるが、これは是非共浴室以外の所に設けてなるべく室内に煤煙や塵埃のたないやうにしたい。

### 理想的な洋風浴室の一例

はだかのペビーさんのよろこばしさを茶目顔。

入浴の心地よさは、大人にも子供にもかはりはなく、殊に一日の活動に疲れた身體を、程よい湯槽の中に憩むる位、心も體ものびくすることはあるまい。



理想的な洋風浴室の一例

云ふ迄もなく、此處に選ばれた寫眞は、浴室の設計として、正に代表的なものゝ一つかと思ふ。

例へば床や腰に見られる、美しいタイルの化粧振りと云ひ、一隅に置かれた稍々大形な白色陶器製の湯槽と云ひ、何れも理想的浴室として申し分のない設計ではないかと思ふ。

湯槽の上に設けられた簡單な硝子窓のデザイン振りもまた賞すべきであらう。

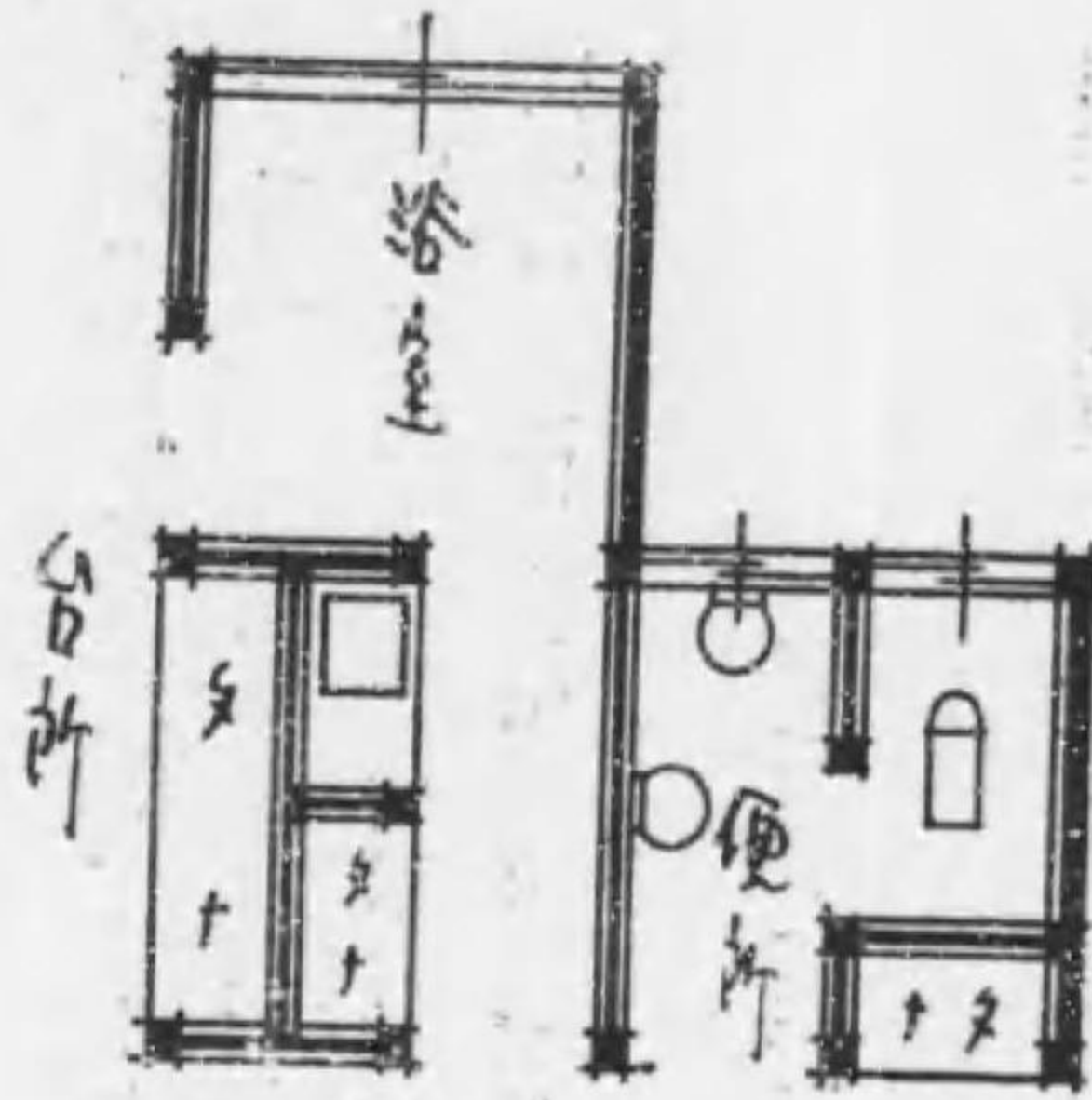
湯槽の傍らにある二本のパイプは、一つが温水用で、他の一つは冷水用である。

### 理想的な便所の位置とその構造

住宅の設計上、番厄介で而かも二番難問題なのは、何んと云つてもこの便所の始末であらう。

これには、一つは便所と云ふものが兎角汚たないもの、不潔なものと云ふ觀念から、従つてそこに不快な感情を呼び起すと云ふ關係もあることであらうが、何れにしても、餘り感じの宜い場所でないことは明らかなことであるが、さりとて、これを何處までも汚たないもの、不潔なもの

として、放つて置くと云ふことは、一層その不潔さや不快さを増すばかりでもあり、且つまた居住者の衛生上にも面白くないことであるから、かう云ふ不潔になり易い場所は、日常に於ても努めてこれを清潔にするやうに心懸けると同時に、その設備上に就いても、充分行き届いた考案を施すことが、何より大切な要件の一つかと思ふ。



浴室と連絡して設けられた便所。

### 位置

居間や客間の近くに便所の出張つたのも餘り感心出来ないが、と云つて馬鹿に飛び離れた場所に置かれたりするもの、これもまた少なからぬ不便を感じることであらうから、此の點は餘程家全體のプランニングと云ふものを考慮した上に、その位置を定めないと、互に思はぬ失敗を招くことがある。

理想的位置としては、餘り人目に觸れないで、而も相當便利な場所を選びたい。

### 方位

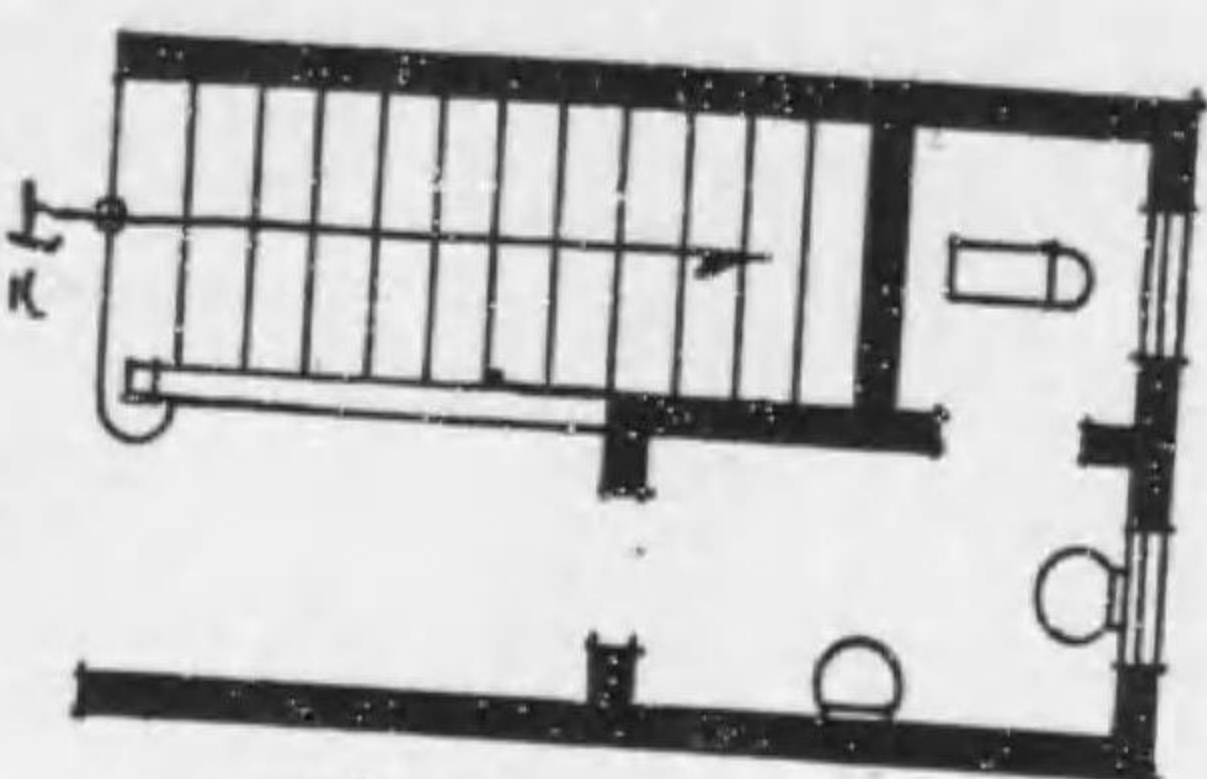
敷地の具合や、全體の配置に依つて、いろ／＼間取りの都合もあらうが、出来るなら便所の方向は注意して選んで欲しい。

北向きの日光の全く當らない、年中じめ／＼したところや、西陽のカン／＼當るやうな便所では不愉快も甚しからう。と云つて、南向きや東南向きは何れも他室との關係に差支へがあらうから、先づ比較的無難な方向としては、東かまた東北向きが宜からうと思ふ。

### 便所の大きさ

次は便所の大きさであるが、これは格別大した面積を要するものでもないが、しかし餘り窮屈で、屈むと額やお尻が壁にぶつかるやうな便所であつても不快であるから、出来得るならゆつくりした廣さが欲しい。

大略、適當な廣さとしては、一メートル角乃至は横一メートル縦一メートル二十センチ、せいぜい大きくて一メートル二十センチ角内外、これに附隨して略同大の小便所及び手洗所のやうな



ものを設備したならば申し分なからう。

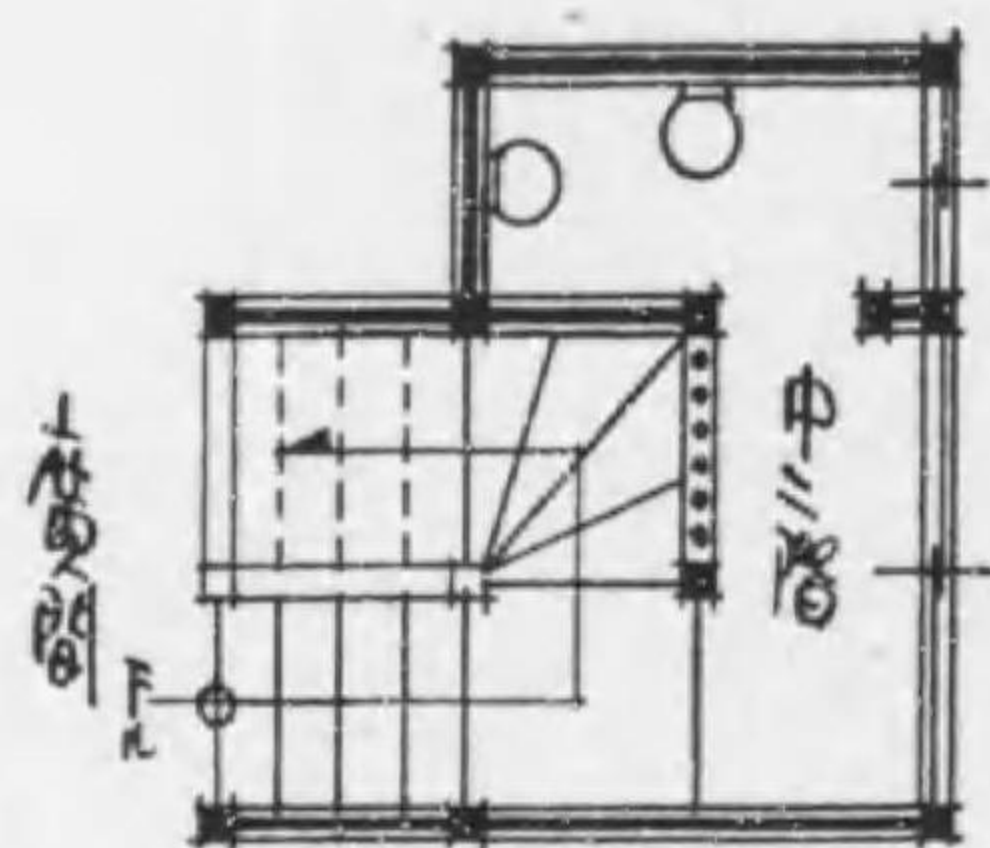
採光

便所の採光——これも勿論明るいに越したことはあるまい。光線が不充分だと、何れの家庭に於ても、思はず周囲が不潔になり易く且つまた掃除や消毒などにしても、何れも怠り勝になり易いから、此の邊の注意は前以て充分に心得て置いて、出来得る限り明るく、それこそ塵一つ落ちて居つても、直ちに発見し得られるやうでありたい。

換氣

便所の衛生的注意の一つとして、糞溜または尿溜に適當な臭氣抜を設けること便所の天井際に換氣抜を造つて置くことを忘れないやうにしたい。尙理想としては適當な殺菌装置のやうなものも施して置きたい。

階段下に設けた便所。



中二階にとつた便所。

便所の構造

浴室と同様に、床も腰も何れも白色のタイルで張り詰め、時々洗滌の出来得るやうにして置くと、衛生上にも宜い。

手洗所

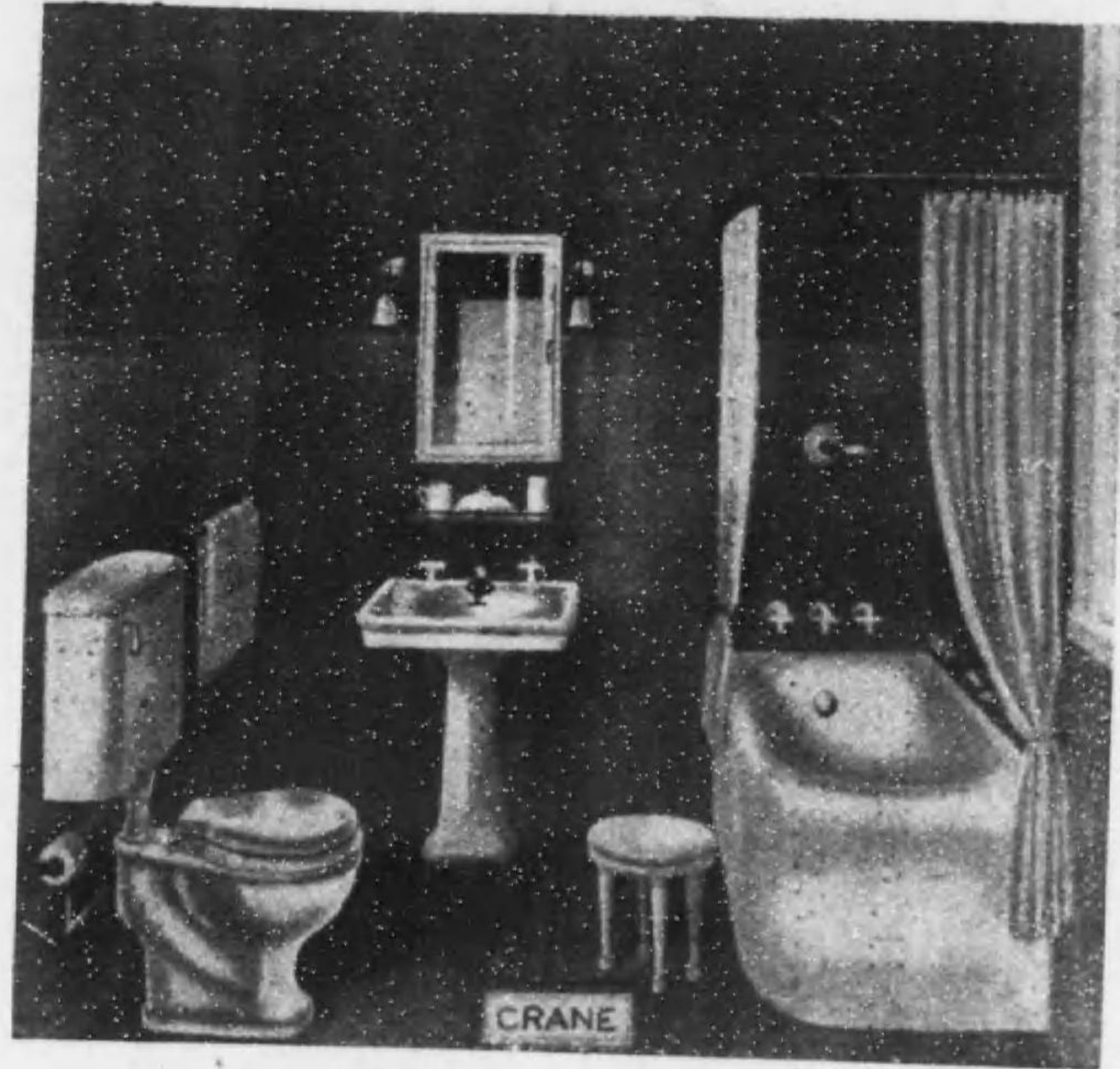
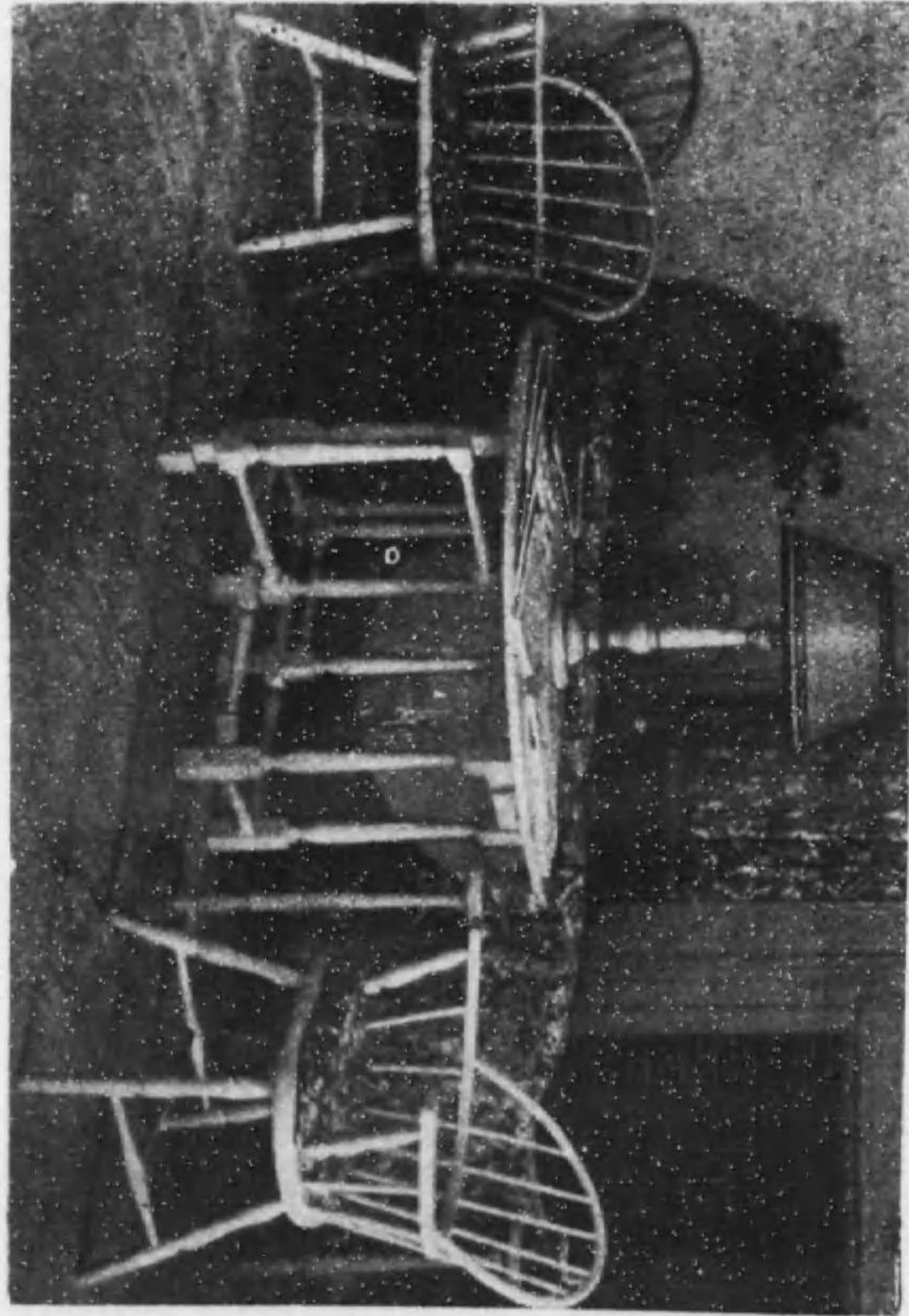
小便所の一隅か又は別に白色陶器製手洗器の具へが要る。

浴室と便所と洗面所

居間とか豪所とか子供室とか云つたやうなものに就いては、これ迄いろいろと研究もされ改良もされつゝあるやうであるが、此の便所だとか浴室だとか云ふ方面に關しては餘り論議されてゐないやうである。

此處に掲げた寫眞は云ふ迄もなく洋風バスの一例で、向つて右手に見えるのが Bath Tub (浴槽)で、左手が Water Closet (便器)で、突きあたりが Lavatory (手洗)である。浴槽と手洗には各々





浴室と便所と洗面所

冷水と温水とが導かれ、また別に浴槽の上部にシャワーの備へもある。廣さは約二メートルに三メートル角内外。

### 田舎好みの家

居間の暖爐前に配された家具の一組である。

英國あたりの田舎家などによく見受けられさうな至つて古風なスタイルの家具で、言はゞ田舎好みとでも云つた形のものである。

純朴な如何にも懐かしみのある家具ではないかと思ふ。

ゲート・レグ・テーブル (Gate Leg Table) 圓くもなれば、半圓にもなり、また細長くもして使へると云ふ頗る變つたテーブルで、寫眞は片々を折つて半圓にしたところである。

扇形椅子 (Winder Chair) 背當が扇形をしたもので、リビング・ポーチや別荘などに用ひるも面白からうと思ふ。

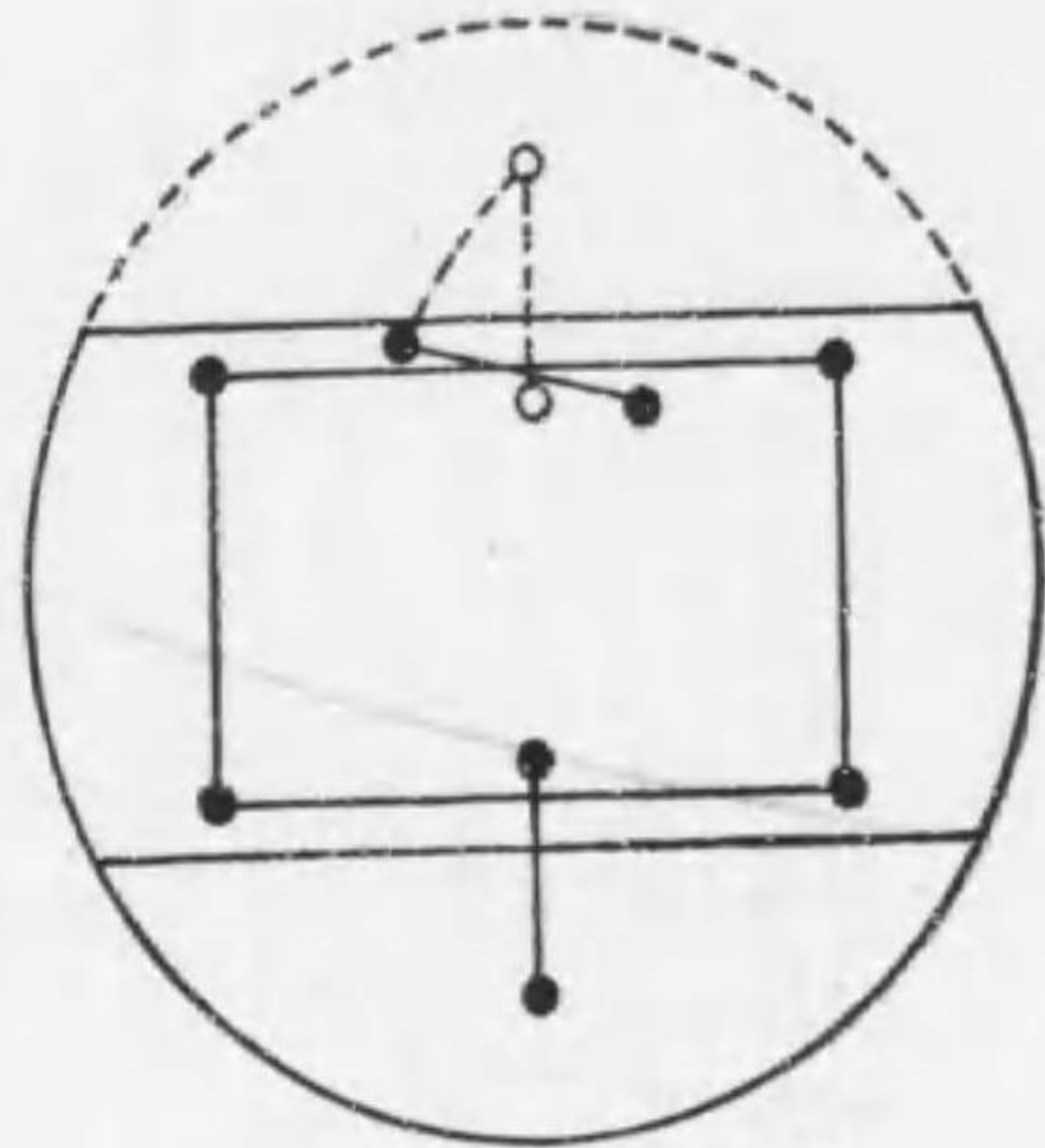
スタンド・ランプ (Stand Lamp) 居間のテーブルには必ず付きもの一つである。全體としての形も勿論悪くはないが、特にシェードの愛すべき意匠振りに注目せられたい。

### 居間の家具の配置

暖爐前に置かれた大きな圓テーブルを中心として、巧みな椅子の配置など、さすがに居間らしく落ち着いた氣分にする設計ではないか。

ロッカー (Rockers) 搖椅子とも舟底椅子とも呼ぶが、普通ロッカーで通つてゐる。椅子の脚部が舟底形になつて、前後に搖れるやうに作られたものである。圓テーブルの向ふ側に見えるのがそれである。

居間の備へ付け家具として一つか二つ置くも珍しからう。

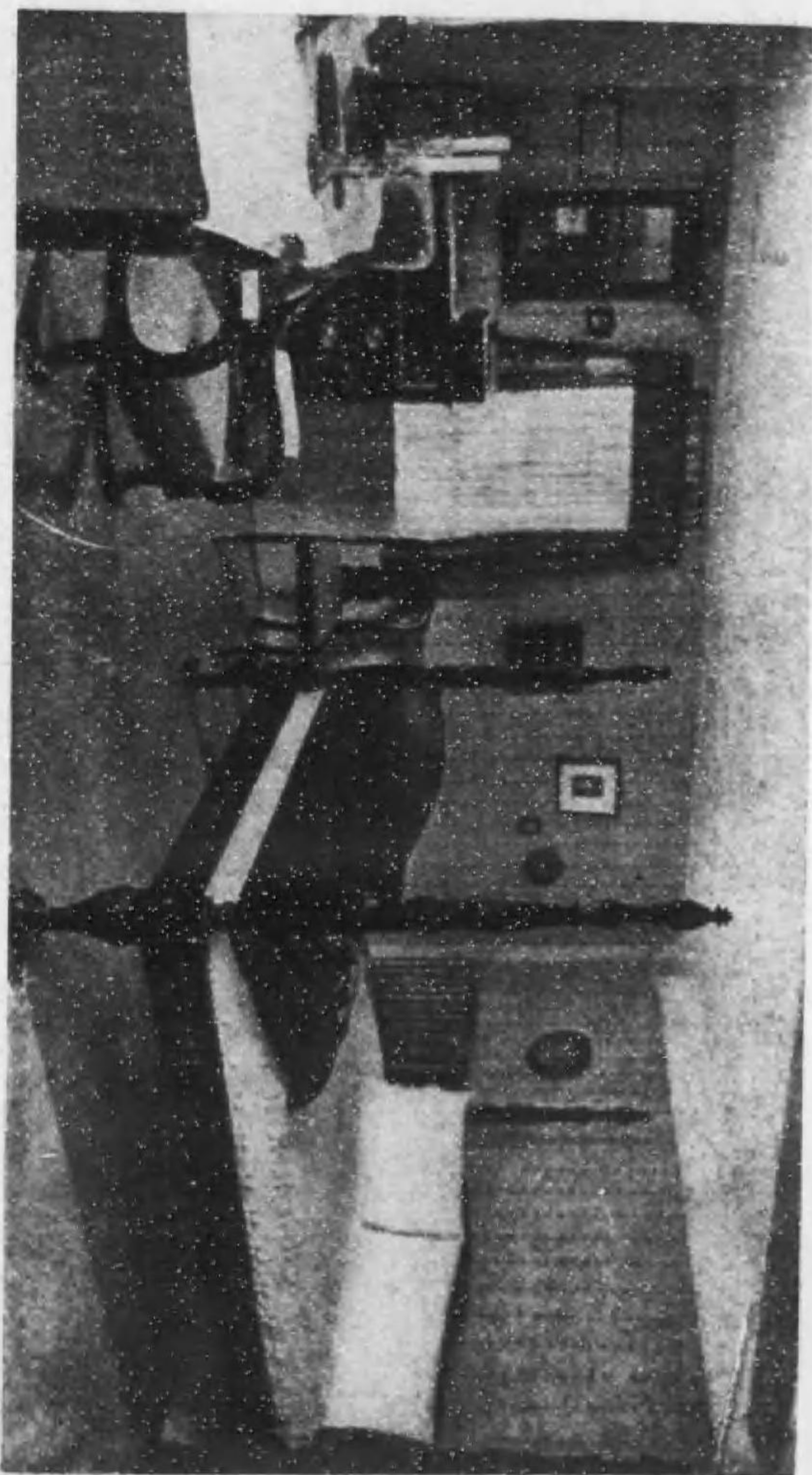


ゲート・レグ・テーブルの平面で御覽の如く脚は六本からなり、内四本は固定し二本は動くやうになつて、左右の甲板を垂れ下げたり擴げたりするやうになる。

安樂椅子 (Easy Chair) 一般にアーム・チェアで通つてゐるが、普通の肘掛椅子に比較して、肘掛や凭れが特にたつぷりして、且つ總體が張りぐるみになつたものを言ふらしく、ロッカーの右







高麗な深窓の家具

薄つべらなせんべい蒲團式生活に比較して、何んと云ふ大きな相違であらう。

ダブルベッド (Double Bed) 二人用の寝臺、純白のシーツに純白の枕被ひ、それから絹布の羽蒲團など。安らかな作りである。

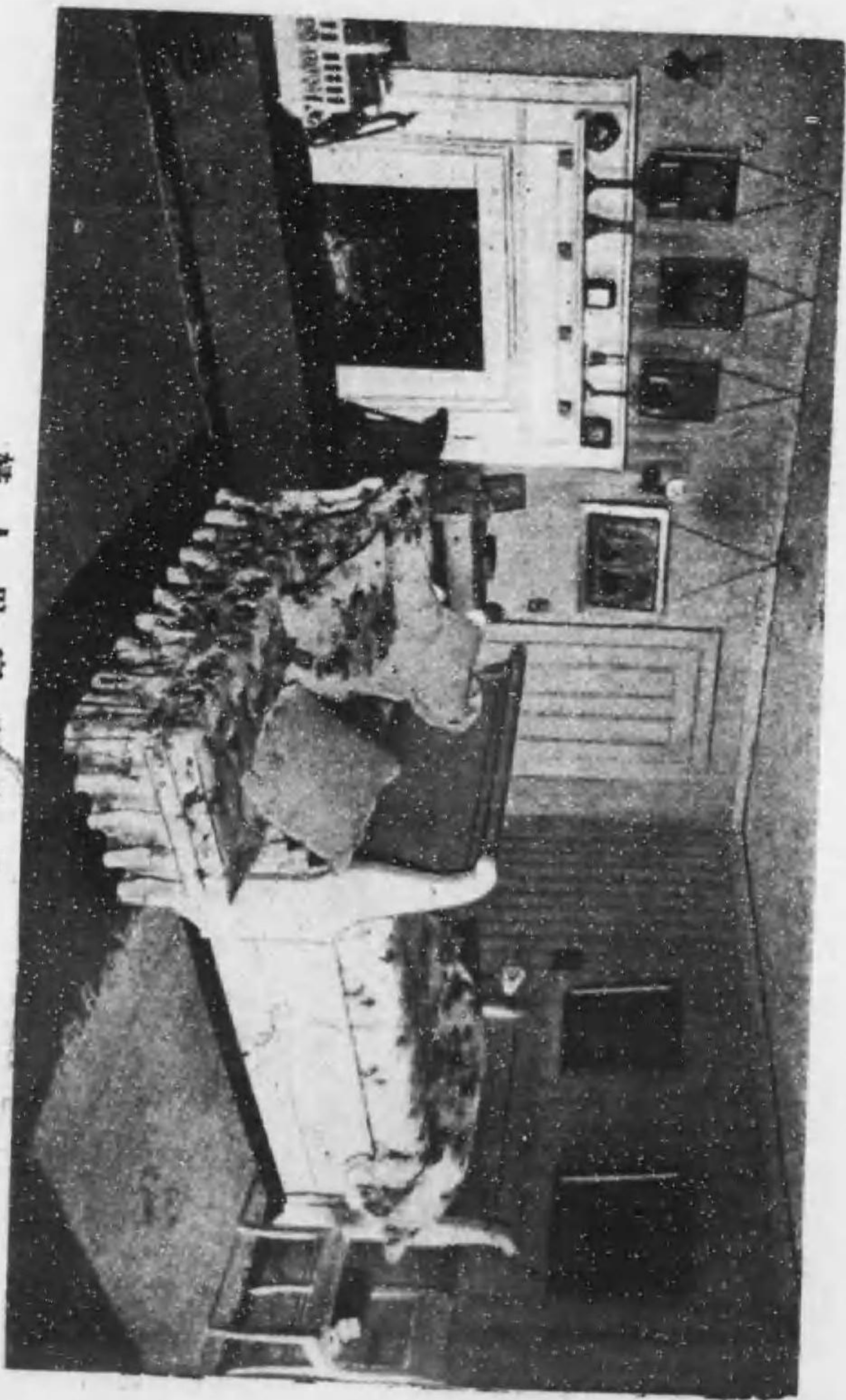
アームロッカー (Arm Rocker) ロッカーは舟底椅子、アームロッカーとは即ち肘掛のついた舟底椅子のことである。詳しくは寫眞を御覽になつていただきたい。

化粧箆笥 (Dressing Chest of drawers) 洋風の寢室には大概付きもので、極く手廻りの品や、化粧道具などを入れ置くに便利であらう。

### 婦人用寢室家具

鐵や眞鍮製の寢臺<sup>ベッド</sup>も造りに依つては勿論悪くもないが、住宅向きのものとしては、どちらかと云ふと木製のものの方が見たところ感じが宜い。

寫眞はベッドを始め何れも木製になるところの婦人用寢室家具の一例である。  
シングルベッド (Single Bed) 一人用寢臺。全體を通じての意匠振りに何處となくやさしい婦



婦人用寢室家具

人の心がほの見えて、おのずから親しみの湧くデザインだと思ふ。

●●●カウチ (Couch) 寝臺または寝椅子の意。大體はソファに似寄つたものと思つて大した間違ひはないが、たゞ普通のソファと異なる點は、御覽の通り臺の一方が恰かも枕のやうに持ち上つてゐて、早く言へば横になるために特に考案されたものを云ふのである。

ベッドの傍らに配されたものがそれで、クレトン地に豊富な色彩の薔薇模様を置いた見るからに美しいカウチの一つである。

### 暖爐物語 (Fire Place)

洋風住家に於けるファイア・ブレースと云ひ、また日本の民家に設けられた圍爐裡と云ひ、何れもその形や方位こそ異れ、そこに等しく燃えさかるところの赤い火の氣と云ふものは、昔から何んなにか我等の祖先が親しんで來たことか。

恁んなことを考へると、思ひ出はいつか何十年前の昔に還つて、あの煤けた故郷の圍爐裡を中心として、そこに生れ出た數多の物語りにゆくりなくも幼年時代の心の記憶をさへ甦へさすには



大小の玉石を巧みに組合せて築いた暖爐

みられない。

云ふ迄もなく、冬の夜に赤く燃え立つ火の氣を愛するのは、たゞにからだを温めると云ふためばかりではなく、一日のつとめを終つた後に此の暖爐や圍爐裡を傍にして、夫や妻をはじめ可憐な子供達等の間につくらるゝ楽しいアトモスフエヤは、それはまた何んなに得難くも喜ばしいことだか知れまいと思ふ。

以下、話を我が「暖爐物語」について進めて見やう。

### 暖爐を築く呼吸

暖爐をうまく積み上げると云ふことはなかなかの一仕事である。うっかり無經驗な設計家や

不馴れた職人の手にかゝつたが最後、到底満足なもの出来難い。何んと云つても數多く手がけた人であり、何度も苦しい經驗をもつた者でないと、本當にその道の呼吸と云ふものが分らない。

### 焚口と煙道

わけでも一番苦心を要するのが、此の焚口(Opening)と煙道(Flue)である。

暖爐を作つて煙が、まく引かなかつたり、それかと思へば反對に引き過ぎて部屋の中が思ふやうに温まらなかつたり、あるひは少し強い風でも吹いたりした場合に部屋の中に思ひがけない吹き返しが來たりして、どうにも使用の出來ないやうなことがあるが、恚うした原因の大部分は、此の焚口と煙道との關係に故障があるか、若しくは煙突の高さが足りなかつたりした場合に多し。

通常、煙道の大きさは焚口の大きさの約十分の一内外を以て適當とされてある。たとへば、焚口の大きさを假りに七八・七八(巾)の六六・六六(高)とすれば、此の場合煙道は丁度煉瓦長手一枚角(二二・七二五)程度の大きさに作れば、大略比例する譯である。

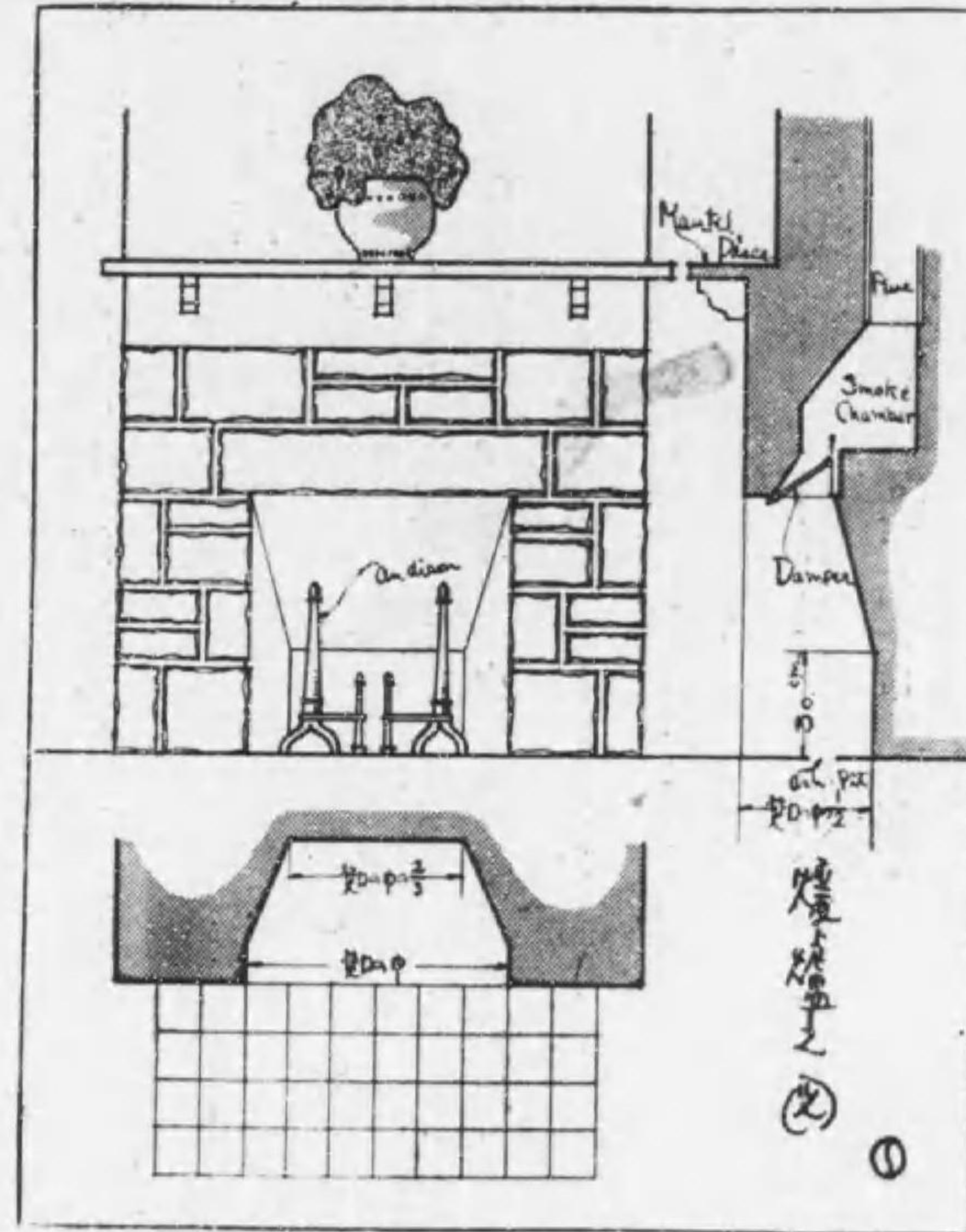
云ふ迄もなく、暖爐を作つて外にこれと云ふ目立つた故障もないのに、何う工夫して見ても具



入込に設けた暖爐

つまり焚口から上つた煙りが上端にあるせま  
い喉口を通過して此のスモーク・チエムバー  
(Smoke Chamber)に入つた際にそれが一度に  
膨脹作用を起し、その勢で下の煙りを吸ひ上  
げると云ふ仕組みになつたもので、同時に膨脹  
した煙りは熱してゐるから直ちに急速度を以  
て煙道を傳はると云ふ譯で、また一方上から  
の所謂吹き返すと云ふ奴も同じく此のスモー  
ク・チエムバーに依つて大部分が緩和され従  
つて部屋の中まで煙りを吹き返さずに済むと  
云ふ譯になるのである。

吹き返すと云へば、之れに就いてもう一つ  
他に注意すべきことは、之れは必ずしもチエ  
ムバーのみに關係がある譯ではなく、多少煙



合の悪いのは、大概此の比例を  
無視したいゝ加減な出鱈目をや  
らかすからである。

### スモーク・チエムバー

俗に「煙溜り」とでも譯されや  
うか、圖解を御覧になるとよく  
お分りになるであらうが、目的  
は煙りの吸込をよくすると吹  
き返しを防ぐためのもので、暖  
爐には是非無くてはならない大  
切なものである。

焚口から煙道に移る中間に設  
けられた一つの溜りがそれで、



突の頭の作り方などにも関係が無いとは云へないと云ふことである。

そんなところから外國などの例を注意して見ると、よく煙突の頭部に煙り返しと云つたやうなものが作られてあるのを見受けることがあるが、事實に於て之れなども一理ある方法ではないかと思ふ。

### 爐の深さと巾

爐の深さは大概焚口の中半分とし、奥面の中は同じく焚口の中の三分の二内外を適當とする。

喉口の中は焚口の中とほぼ同一であるが、前後は一〇糎位にする。

### ダムバー

喉口に装置されてある鑄鐵製の調節器(Damper)のことで、煙の引き具合を調節したり、火の燃え加減を按配したりするためのものである。

## 火 床

過つて煖爐の火を轉げ落したり、また灰をこぼしたりした場合に床に焼けこげを拵へたりしな  
いための用心に、焚口の前に四五糎程突き出し、そこに板石かタイルのやうな特に不燃質物で作  
られた床をさう呼んだものである。



粗石積の面白い煖爐ではないか。  
簡素なマンテル・ピースの意匠振  
りにも注視していただきたい。

### 煖爐前飾り

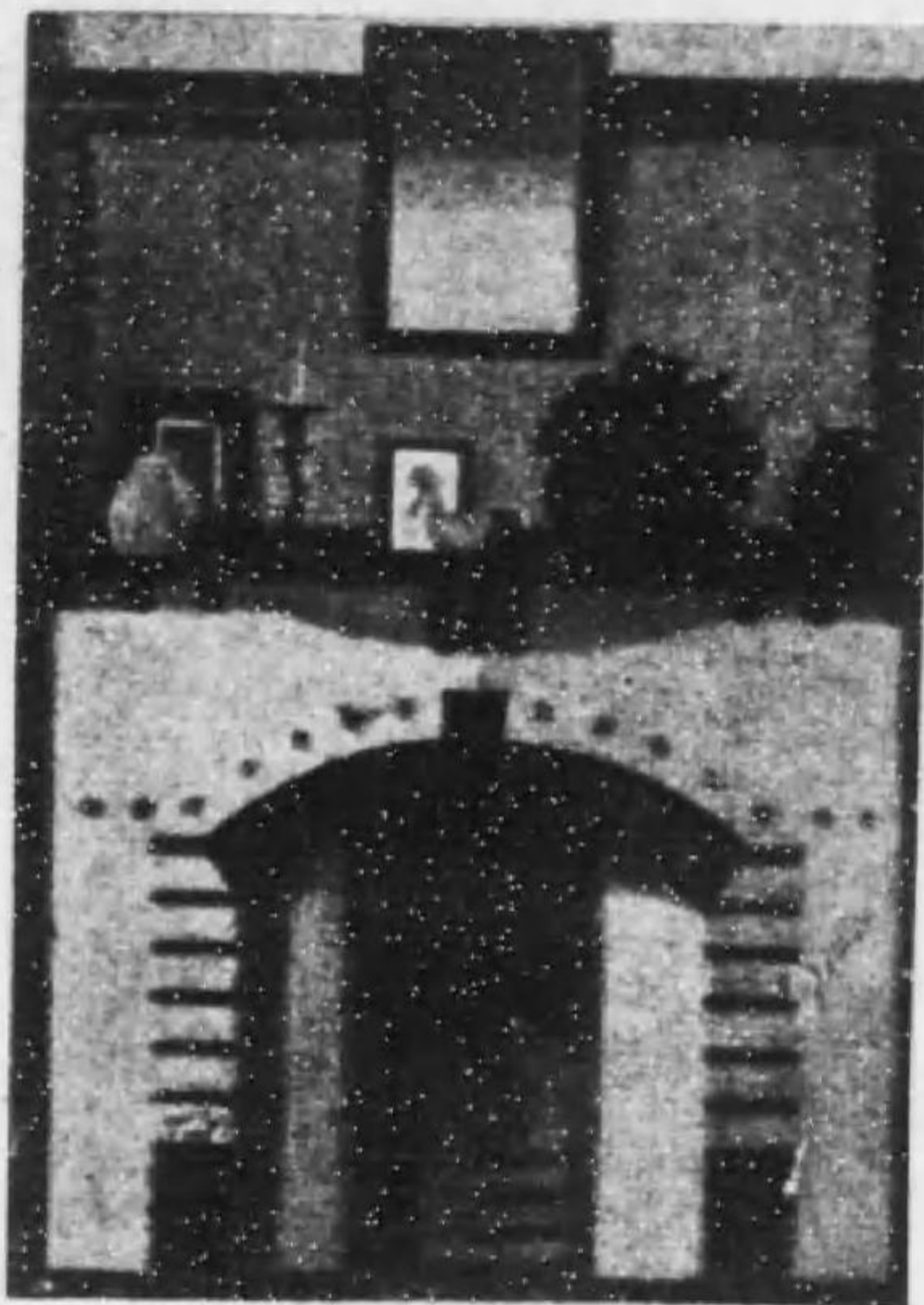
洋風室内に入つて第一番に  
目につき易いのが、此のマン  
テル・ピース(Mantel Piece)だ  
ある。

マンテル・ピースと云ふ名稱  
は通常焚口の上にあたる部分  
を言つたものであるが、時に

依つては煖爐の前面總體を指してさう呼ぶこともある。

元來が裝飾を目的としたものであるから、材料にしてもまた意匠にしても随分變つたものが見られる。

例へば玲瓏たる鏡を嵌めたものもあるかと思へば、大きな油繪をかけたりしたものもありあるひは飾り棚に美しい壺や彫刻の類を配したりしたものなどもあり、好みに依つて自由に作る事が出来る。



マンテル・ピースの意匠一つ

#### 暖爐用具

暖爐の附屬器具としては、先づ火を焚くための火焚臺をはじめ、薪を架けるために必要な一對のファイフ・ドグ (Fire Ties) またはアンデロン (Andirons) それから普通三ツ道具と稱して道具立 (Tool stand) と共に一組になつた火箸 (Tongs) 火掻 (Poker) 十能 (Shovel) それから薪箱 (Wool box) 石炭入 (Coal scuttle) などである。

#### 室内裝飾小言

(1) あつても無くても、何うでもいゝやうな裝飾——そんなものは寧ろ無い方が遙かにましである。無駄な金を費すだけでも馬鹿げてゐるから。裝飾の濫用、裝飾の安賣りはお互ひにつゝしみたいものだと思ふ。

(2) 美について識る人は、無茶に飾りたがらない。

(3) 一つの裝飾を施さうとする前に、先づ以てその結果について一考せよ。

(4) 一つの裝飾——それは絶對的と迄は行かなくとも、尠くとも絶對に近いものであつて欲しい。

- (5) 値段の高いのを自慢に、應接間や客間の裝飾として、數多くの骨董品をならべたてたがる人がよくある。置き物の價値は兎に角として、餘り感じのよいものではない。
- (6) 不釣合に遣り過ぎる事と、飾り過ぎることは、美術的の美しさを損ふものである。しかし、聰明な省略法は決して美しさを減らす事とはならぬ。(パーバンク)
- (7) 餘り安い材料をカーテンまたは裂地に使用することを避けなければならぬ。それは確かに早くいたむ。(パーバンク)
- (8) 北向きの部屋、うす暗い室の壁には、餘り冷めたい感じのある色を用ひてはならない。また天井は周囲の壁よりは略々軽い色調とし、周囲と同色の薄青い陰の色を用ひるがよい。(パーバンク)
- (9) すべて模様のある面の前には、模様のある面を置いてはならない。無地の壁紙が繪畫の背景として最も効果のあるものである。(パーバンク)

- (10) 食卓の花は餘り多過ぎてはならぬ。また其の種類や色が落ち付いて調和よくなければならぬ。(パーバンク)
- (11) 室の静けさと、落ち付きとを造り出すために、適當の廣さを有する壁面を設けよ。
- (12) 小さい室には大柄の壁紙は似合はない。
- (13) 綺羅を飾るより、住み心地、居心地のよいことが第一。
- (14) 餘りにスタイルに捉はれたり、過ぎた賑やかさを求めたりすると、兎角失敗する。
- (15) 小さい室に澤山の家具を置くのは考へものだ。
- (16) 一つの室に餘り多くの異つた色彩のものを用ひてはならない。それは確かに裝飾的效果を薄らげる。

- (17) 總じて薄い色は室内を明るく、且つ廣く見せる。

### 住宅間取り十則

- (1) 便利、便利で兎角廊下ばかり多く取りたがる設計家が、却つてその廊下のために不便な家を作る。
- (2) 小さい部屋をいくつも設けるより、大きい間を少く取つた方が、すべてに便利であり、經濟でもある。
- (3) 大きな居間、明るい居間、風通しのよい居間。
- (4) 獨立した寢室、鍵のかゝる寢室。

- (5) 南または東を受けた部屋には、何をさし置いても窓を明けることを忘れてはならない。
- (6) 「日光の見舞はぬ家に醫者が来る」と云ふ諺がある。住宅衛生の一つとして、味はひ置くべき言葉たと思ふ。
- (7) 晴れやかな一つのヴェランダ——それは我等の生活を何んなにか嬉ばしいものにするにとだらう。
- (8) 家のことを考へると同時に、我等の生活について考へよ。
- (9) 我等の生活から無駄を無くする時、自然家にも無駄と云ふものが無くなる。
- (10) 總じてよき生活はよき家をデザインする。

## 住宅「門」論

——日本に於ける住宅門のスタイルに就て——

此の小さな感想はかつて雑誌「建築世界」のために執筆したものであるが、沸騰せる現下の住宅問題に關聯して多少なりとも御参考に供する點があらうかと存じ、當時もう一回分書き加へて纏める豫定だつたのを、筆著多忙の故を以て未定稿のまゝ今日に到つた次第であるが、元來これだけ獨立した記述として見ても大した差支へも生じないやうに考へられたので、不本意ながら敢て此處に再録することゝした。

x

自分が之れから述べやうとすることは、やつぱりお定まりの「改良」とか或ひは「改善」とか云ふものゝ中に含まるゝべき種類のものかも知れない。だが、そんな名目は何れにしても宜しい。要するに自分の此の貧しい感想に對して一人でも賛意を表して呉れる人があり、而してそれを實行して「成る程」と思つて呉れるやうな人があつて呉れれば結構である。それで満足である。後は事實が證明し、物語つて呉れるであらうから。たゞ願はくば自分の此の微力を單なる紙上の空論

として終らせたくない。では之れから自分の考へを一通り述べて見ることにする。

先づ、私達は試みに我が大東京（これは單に東京のみの意ではない）の目下の唯一の住宅地（？）とも云ふべき所謂「山の手」と稱するところから、更に近來異常な勢を以て拓けつゝある近郊の一角に歩を運んで見やう。其處には自分が之れから語らうとするに最も都合の宜い標本が數多く散在してゐるのが見受けられる。

例へば行く手にだら／＼坂を上り切つた右側のものがその一つである。外見にはなか／＼大きな邸らしい。周圍は丈餘もある高い煉瓦塀でとりかこまれてある。恐らくどちらへ廻つて見ても家も庭も一切見られまい。しかも其の塀の上端に當るところには硝子瓶の破片が無數に鋒先を向けてならべられてある。察するところ金満家の名案になる泥棒除の一策か、さもなければ、風流主人の廢物利用の一つか、何にしても世界には珍しいものゝ一つであらう。だが、それよりも更に街路に面して設けられたあの大袈裟な鹿爪らしい門のスタイルは何うか。さながら石屋の看板そのものゝやうなあの馬鹿げて太い花崗石の門柱は何うか。——たゞ徒らに大きいその門の構へにまた定めし高價であらうその太き花崗石の門柱を前にして、先づ私達は其處に何んの意義を見出すであらうか。恐らくはその事實が示すやうにたゞ門と見れば一寸でも太く、一尺でも高く、而

して一文でも金の多くかけたものを以て立派なものだと定め込んでゐる、またそれを以て一つの誇りと心得てゐるさうした人達の自分良がりな心持、その心持を土臺に造られたものに對しては遺憾ながら我々には其處に何等の意義をも認めることが出来ない。従つて賛成も出来難い。寧ろ都市の美觀や四圍の迷惑を思ふ上からは、恰かも監獄のそのやうな高い煉瓦塀や、或ひは硝子瓶の破片をならべたてた珍奇な泥棒除や、徒らに大きく不恰好な門などは、全く一時も早く取除いて貰ひたくさへ思つてゐる。すくなくとも今後の我が住宅地に再び慙う云ふものを繰り返し建てること、その事だけは是非共止めて貰ひたいものだと思ふ。お互に内省して見て欲しいと思ふ。

以上は所謂「山の手」に見らるゝ一住宅門の一例である。

次に郊外の倒を擧げて見やう。

之れはまた前者より一層珍奇揃ひの陳列場かも知れない。

即ち、或るものは（多分近頃の無關心な俄か成金でも建てたものであらう。）新式な西洋館の鼻先へもつて行つて殺風景な黒板塀の目隠しを圍らしたり、かと思へば一方では大いに凝つたつもりの煉瓦塀や石塀の間から安物の冠木門や腕木門が其處此處から首を突き出して恰かも洋風に下

駄がけと云つたやうな奇態な恰好のものが到るところに散在してゐる。

恐らくは、其の何れを見ても一つとして街の統一とか、或ひは四圍の調和などゝ云ふものに対する考へが、更に置かれてゐないと云つても大した過言でもなささうに思はれる。

實際其れ等の滑稽なスタイルを見ては、殊更に洋服に下駄履きを笑へたものでもあるまい。

假りにその洋服に下駄履き姿が如何様に滑稽なスタイルであらうとも、すくなくとも我が國の此の眼前の状態を見るに及んでは、その滑稽なスタイルをも滑稽として、笑ふやうな權利は斷じて與へられさうにもない。

若し、此處にそれを敢て笑うと欲する人があつたら、豫め郷達の背後に數多の滑稽と醜との散在することを、現に自分が此處に述べ來たつたことも其れの一つであることを記憶に止めて置いて頂きたい。（大正、九、四、稿）

### 清新な庭園小門

赤い色の煉瓦の仕切りと、アーチ形に伸びかむさつた緑の蔓草と、半ば開かれた白いペンキ塗



清新な庭園小門

の扉とが、またなく、心よい調和をなして、見るからに清新な気分を與へる寫眞ではないか。單純で、而かも要領を得た扉の意匠振りを御覽なさい。

無闇と門を欲しがつて、そのくせ門と云へば直ちに大袈裟なものを造りたがる我が日本人達のととても眞似られないところであらう。

寫眞は、アメリカの或る邸宅の庭に面した小門と仕切りの一部を撮つたものである。小門を入つた先きは、多分廣い庭か花園にでもあたるであらう。

### 庭を飾る小門の意匠

住宅に限らず、すべて門と云ふものは、宜く玄關とか、あるひは車寄とかの取合または周囲とか調和とか云ふやうなものを考へてデザインすることが必要である。

### 門の恰好

恰好は官衛など異つて、あまり大袈裟な塵爪らしいものは大禁物である。何ちらかと云ふと

軽快な、如何にもうちとけたやうな所謂ニコノ的スタイルを欲する。と云つてもあまり凝り過ぎたのも頗るキザであり、また直きに厭きが來たりするから、恁う云ふものは餘程考へを要する。

### 門の大きさ

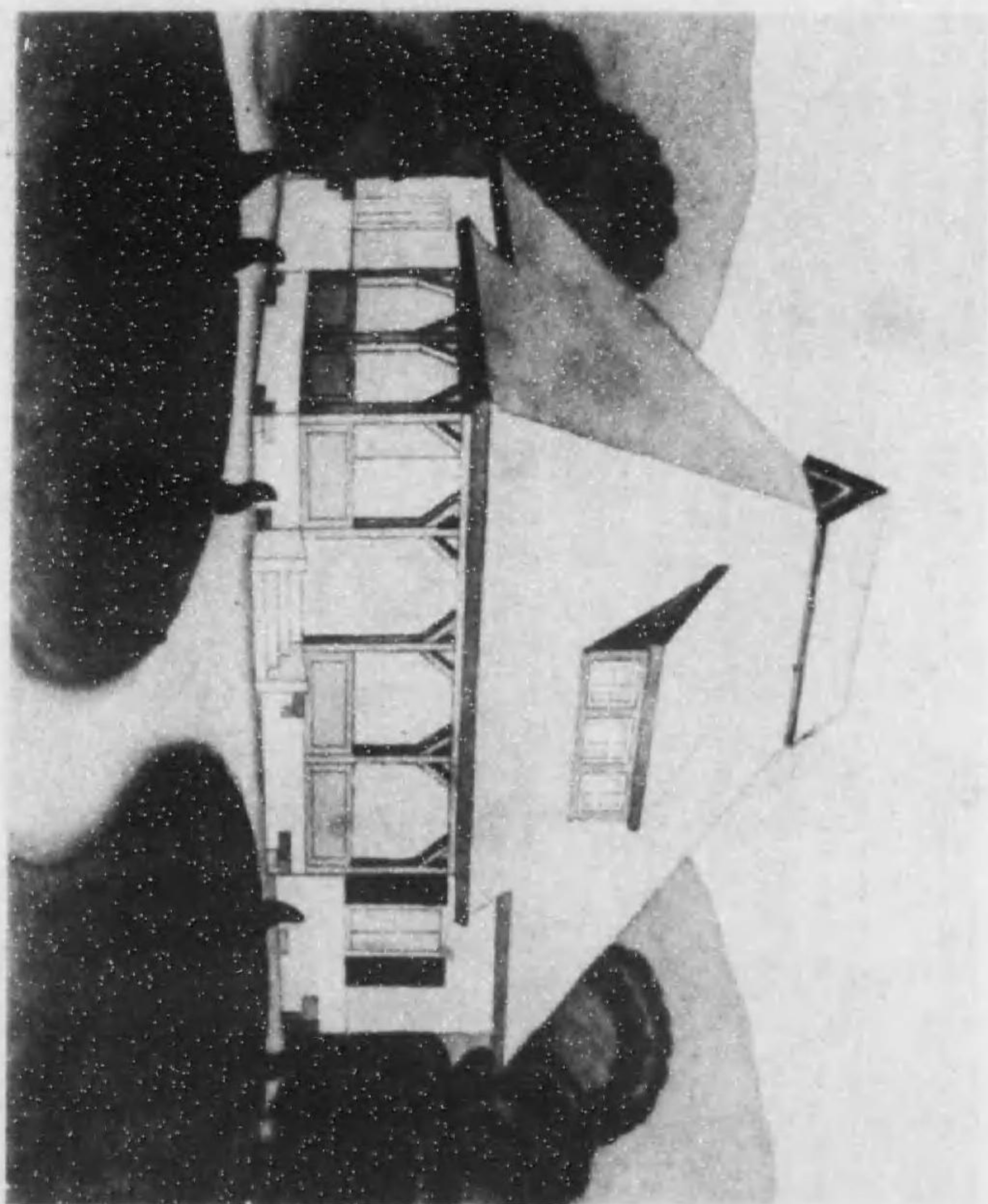
幅は一メートル乃至二メートル位が適度であらう。高さも一メートルからせいぜい二メートル止り位にして、周囲の塀は門の高さよりすつと低く、外部から邸内の庭園などを自由に觀賞し得られるやうな高さに止めたい。

### 構造

門の構造は煉瓦、石、木造等いろいろあるが、住宅向きの門としては、あまり手をかけたものより、反つて自然の形そのままの材料を調和よく用ひた方が、案外面白いものが出来る。

門扉は簡単な鐵製のものか、さもなければ木製のペンキ塗などが相應しからうと思ふ。

挿圖は最近著者が手にした某官舎の表門の改造案である。





周囲の土壘は在來のものをそのまま應用したもので、門柱は土壘の袴腰を兼用した頗る變つた形のものである。設計はコンクリート造であるが、石造にしても差支へない。扉は木製の白ペンキ塗である。

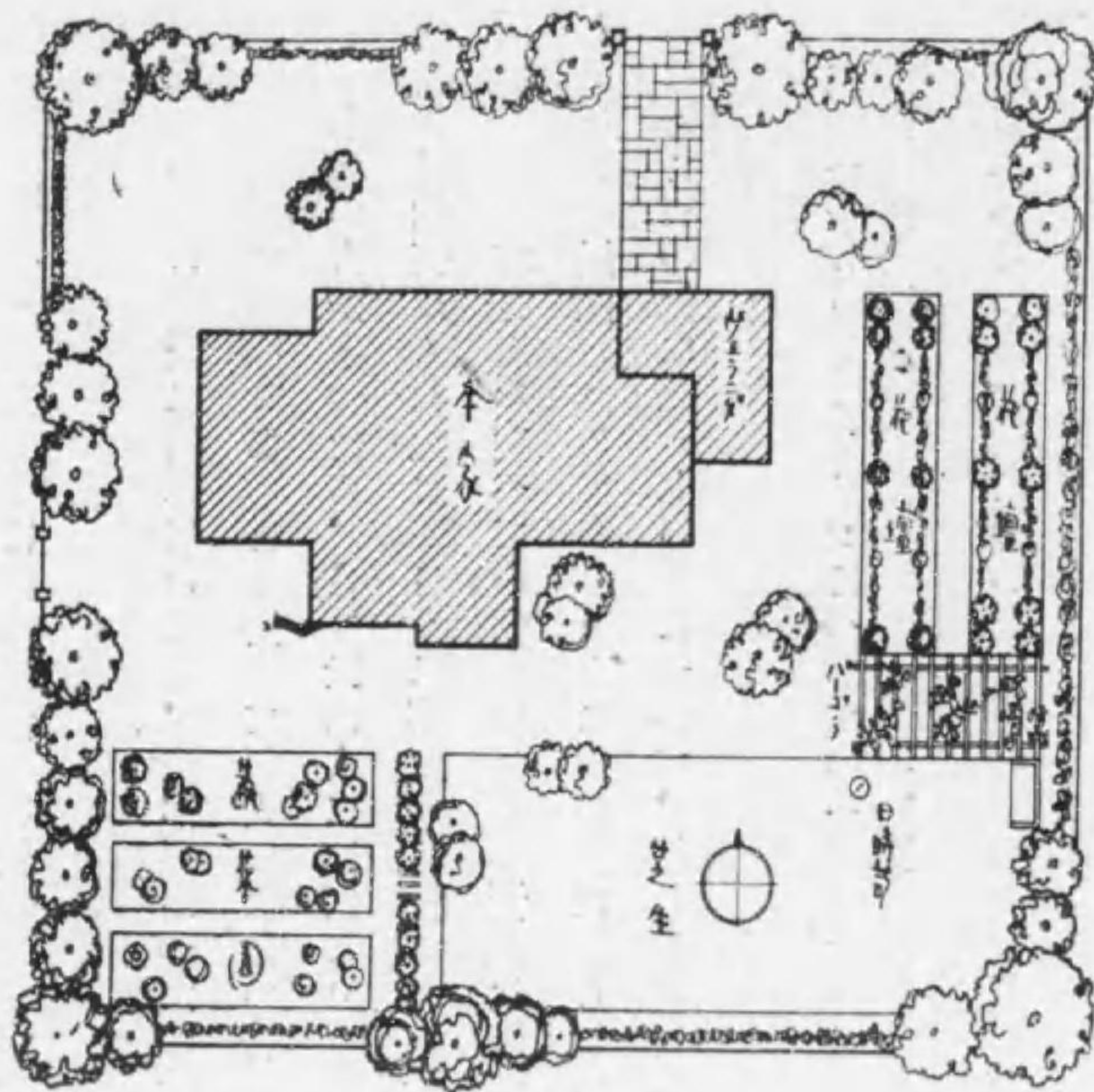
土壘には毎年夏から秋にかけて美しい色とりどりの松葉ばたんや野菊が一面に咲き亂れて、如何にも趣きある風情を添へるとは、此の官舎に住む夫人からの聞き傳へである。

### 中庭への入口

寫眞はカリフォニアに建つ建築家スミス氏邸の中庭へ通ふ入口の一部である。

別に取り立てゝ擧ぐべき程のものでもないが、簡單で而かも無雜作ながらに、そこにまた云ひ知れぬ味はひの含まれてあるのを特に賞したいと思ふ。

スタイルに現はれた東洋的趣味も懐かしまれる。



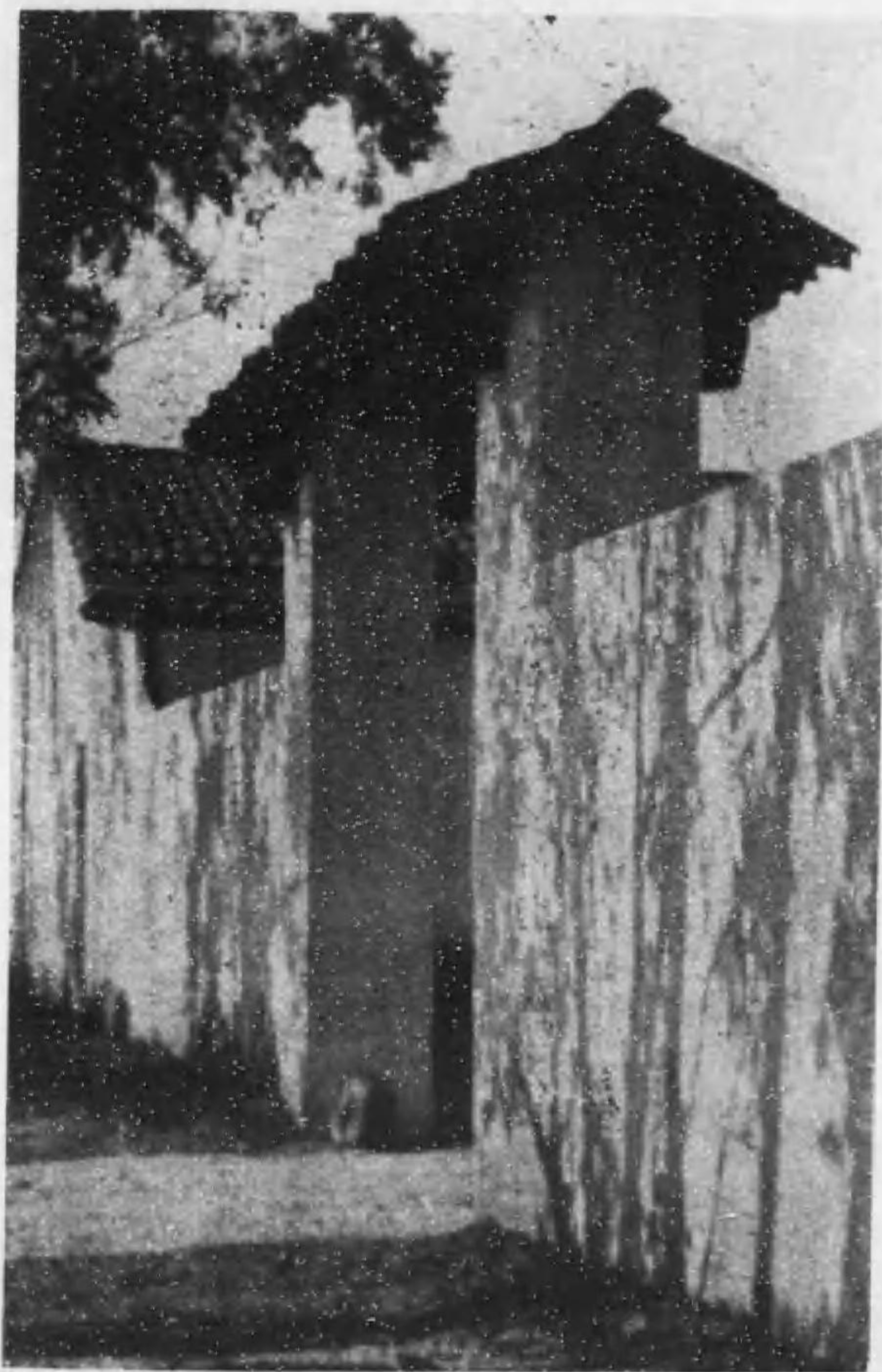
プロツク・プラン

### プロツク・プラン

兎角忘れられ勝な問題であるが  
 讀者は先づ何よりも家のことを考  
 へると同時に、住むべき土地のこ  
 とについて考へて欲しい。

新型の住宅を建てた迄は宜いが  
 その新しい住宅に通ふべき道路は  
 霜解けに滞<sup>ど</sup>らうが、芝生は烈日に  
 枯れやうが、一向おかまひないと  
 云つた風な態度であつてはならな  
 い。

家ばかりに手をかけて庭を他人



中庭への入口

扱ひにして平氣な人は眞に庭の價値、自然のありがたさを知らない不幸な人と云ふべきではないだらうか。

家がいくら立派に出来てゐても、庭が悪かつたら餘り住み心地好い感じもしますまい。

庭と家とは兄弟であるとも決して他人ではない筈である。家のことばかり考へて庭のことを問題にしない人があつたら、さう云ふ人には何よりも先づ、あの輝やかしい大空の下で、如何にも自由に、如何にも元氣よささうに嬉戯する愛すべき子供達の姿を——青波をたゞへた廣い芝生に折からのお客さんを交へての楽しい集りの情趣を想像して見ていたゞくことをお勧めしたい。而してそこに展開されるであらうところの眞に庭らしい庭——自然と人生との平和な和樂のうちにあるところの眞に庭らしい庭について、親しく觀察していたゞくことをお勧めしたい。

挿圖はブロック・プランについての一試案。

大體敷地の關係にも依るであらうが、家の玄関や表門の位置は、出来るなら北か西に面して設けた方がいろいろの點について有利でもあり、且つ設計する上から云つても比較的仕易く、さして骨を折らずに済むが、反對に東や南に當つて門や入口を作ることには、第一家の間取りに少から



木立を蔭に配された一組の庭園向き小家具

ぬ苦心を要するのみならず、折角陽當りの宜い貴重な場所を玄関や通路にむざ／＼つぶして了ふ

と云ふことになるので、何れの點から見ても考へものである。

圖は云ふ迄もなく、北側に面して門と玄関を設け、東と南に面して主なる部屋と庭を設けるやうにプランニングした一例で、門を入ると縁の芝生を縫ふて眞直ぐに一筋の鋪石が玄関へと導かれてある。

ポーチを兼ねたヴェランダの東に面して規則をして造られた花床があり、花床の一端に設けられたパーゴラには美事な寶を結むだ一株の葡萄が這はせてある。

パーゴラの下を抜けるとそこは廣い縁の芝生になる。

柔らかな縁の芝生は大人にとつても子供にとつても歡びであり、親しいものであらう。東南に面してゐるので日當り具合は宜し、偶の日曜のひとときを親子うち揃つて、青い空のを浴びながら小鳥のやうに晴々と歌ふ光景は、それはまた何んなに楽しみ多いことだか知れま

いと思ふ。

芝生の一隅を撰んで形の面白い日時計が立てられてあり、木立を蔭に腰かけて編物などをするに便利なベンチなども置かれてある。

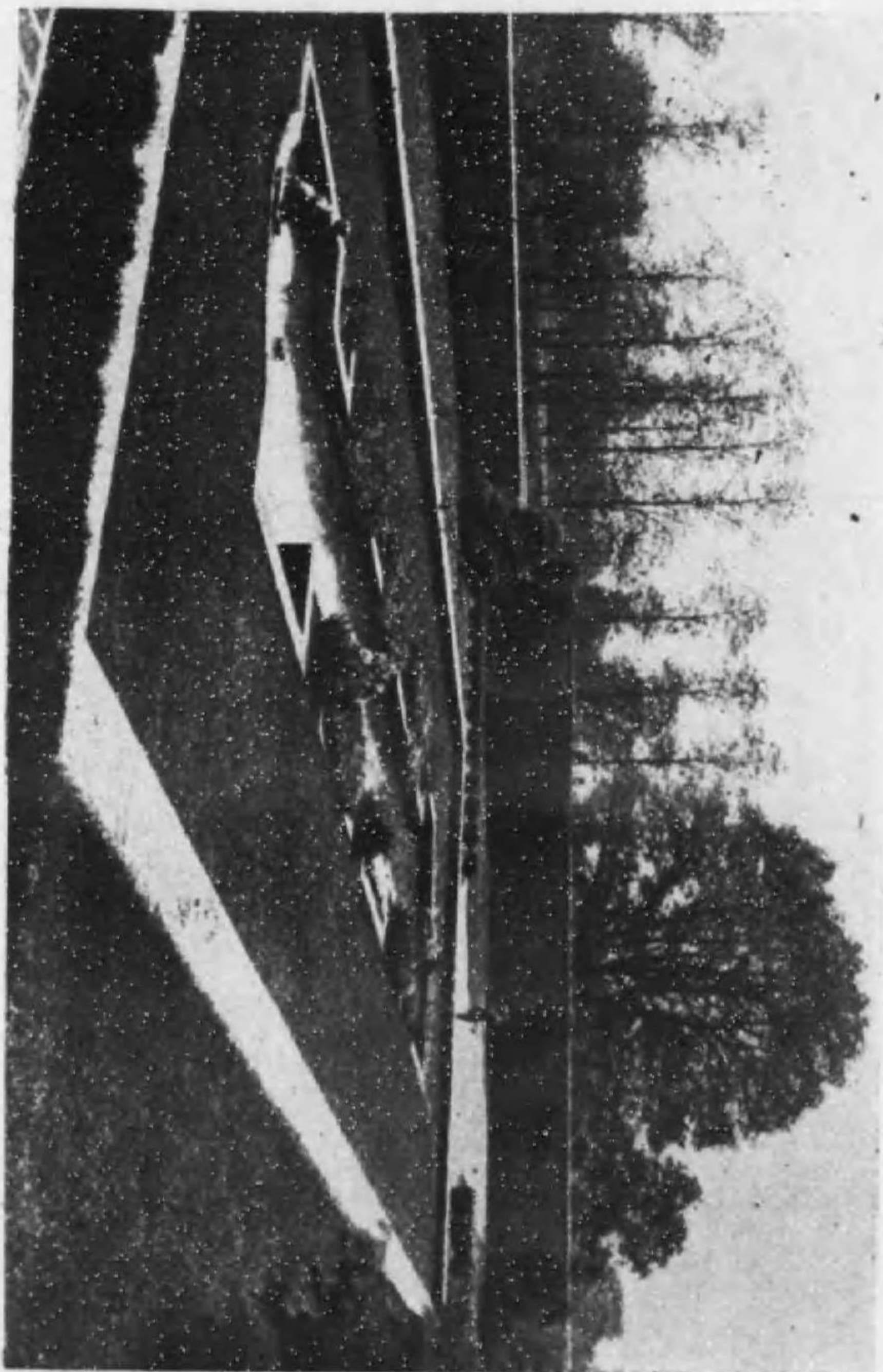
背丈ほどに伸びた蔓薔薇で仕切られた芝生の向ふは蔬菜園になる。さゝやかではあるが晩餐の食卓を飾るに相應しい豌豆やトマトも作られやうし、足下に觸るやさしい草の葉の蔭に子供達を嬉ばす赤いいちごの實を手にすることも出来やう。

菜園と芝生の後方は背の低い果樹で縁どられ、東と北と西の三方は手入れの届いた籬になる。

屋敷の大いさは東西が二十八メートルに、南北が二十四メートル、面積にして六百七十二平方米突程である。

### 平明な庭の一部

見渡す通り、何も彼も明るく、平らかに、和らかに、心ゆく許り美しく造られた庭である。



平明な庭の一部

眞眞はアメリカの某邸ののエランダに接した一局部を寫したものである。

我我プロレタリア階級の家の庭としては稍々縁遠いやうな感がないでもないが、近代的な技巧に富むだ非凡な意匠振りを親しく讀者に御覽に入れやうと云ふ考へから、此處に撰ぶことにした。

こんもりとした木立を配景として、さまざまな形や、さまざまな色彩に依つて飾られた、此の庭の變化に富むだ意匠振りの一端を味はつて戴きたい。

### 新日本住家のために

新日本の住家に關する私の研究並に仕事の一部はこれですることゝなつた。尙言ひたいこと書きたいこと、もつと充分に研究せねばならない點もいろいろとあるが、目下の自分としては此れ以上の時間と且つ勞力が許さないので、遺憾ながら此の位のところを以て一と先づ打ち切りと致して置く。

我々の仕事、我々の研究すべき仕事は澤山ある。決してこゝに止るのではない。私は私の仕事

の一つとして、かつは勉強の一つとして今後に於ける我が新日本の住家のために、これが研究を更にもう一步立ち入つて、より具體的に、より完全に進めたく思つてゐる。

卷末の建築用語の解譯は、特に此の書を手にする素人の方々の硬宜を計り、本書中に使用してある術語のうちより選抜附記したものである。

## 築建用術語解譯

## A

アチツク(Aitche.)——屋根裏に設けた部屋。

アルコーヴ(Alcove.)——入込。日本の床の間なぞもアルコーヴの一種と言はれやう。

## B

バルコニー(Balcony.)——露臺。

ベイ・ウインドウ(Bay Window.)——出窓。

バック・ポーチ(Back Porch.)——裏口。

バス・ルーム(Bath Room.)——浴室。

## C

カーテン(Curtain)——日本人の建てる所謂新しい洋館は何處か見ても窓掛の意匠がまるでなつてゐない。

美しい氣の利いた窓掛はどんなにか部屋のなかを生かして見せることが知れない。

カーベツト(Carpet.)——敷物。テール掛のたぐひ。

クロゼツト(Closet.)——押入。

コツテージ(Cottage.)——田舎家とでも譯されやうか。

## D

ダイニング・ルーム(Dining Room.)——食堂。

ドーマー・ウインドウ(Dormer Window.)——屋根窓。

## F

フアニチュア(Furniture.)——家具。

フレンチ・ドアー(French door.)——下まで硝子張になつた扉で庭やポーチの出口なぞに用ゆることがある。

そんな場合には向うの見ぬないやうにレースなぞをかける。

フレンチ・ウインドウ(French window.)——伊太利や西班牙の家によくある窓で障子が床まで届いてゐてそれを開けばそこから自由に出入の出来るやうになつたものである。

日本座敷のやうに下へ坐る部屋なぞには最も適した窓である。

H  
ホール(Hall)——廣間。

L  
リヴイング・ルウム(Living Room.)——居間。

M  
モザイクタタキ(Mosaic.)——密木細工のこと普通モザイクタタキで通つてゐる。

N  
マサイド(Masjid)——一般に建築師と稱し屋根葺材料の一種である。

N  
ネット・スクリーン(Neot Screen.)——夏季に窓やヴェランダに蔽める蟲よけの金網、  
長押挽——一方が薄く丁度長押のやうな形に板などを製材することゝ云ふ。  
下見板などはよく此の長押挽にする。

O  
大谷石(おほやいし)——最近東京邊の住宅などに最も多く使はれる石材ある。  
凝岩の一種で栃木縣の大谷村の産になるものである。

値段も安く加工も樂で従つて手間も安く上がり且つ見かけに依らず火にも水にも比較的強いのが特長である。

P  
プレーン(Plane.)——平面。

ポーチ(Porch.)——入口、玄関、車寄、廊下など場所に依つてゐるゝいな意味にもされる。一般にポーチで通つてゐる。

パネル(Panel.)——鏡形を爲したものである。

パーゴラ(Pergola.)——藤棚などのたぐひ。

R  
ラフ(Rough.)——粗面。(Rough. Cast.)粗面造。

スクリーン(Screen.)——窓に用ふる金網には青のエナメル塗などが宜しい。

サッシュ(Sash.)——硝子障子の框や棧のことを言ふ。

サママー・ハウス(Summer house.)——夏季別荘。

シングル(Single)——西洋の下見に用ひられてある控割の小板で一方が厚く一方が薄くなつたものである。  
 サン・ボーチ(Sun Bench)——硝子張りにつた玄関。日光浴などをするに宜しい。  
 シット(Sit)——こしかげ。

シングル・ベツフ(Single Bed)——一人用寝臺。

スレート(Slate)——天然スレート(石盤)と人造スレート(石綿板)とある。

サン・ルーム(Sun Room)——日光浴室。

スタツコ(Stucco)——漆喰

籠子下(さくらごしたみ)——下見の板を押へるために上に細い押縁をこまかに打つたもの。

背板——材や上等の板を製した残り丸身のついた板。

四拖配——一尺に對して四寸の傾斜のあること。

ㄐ

テレス(Terrace)——露臺、平場、壇などの如きものゝ意。

玉石——安普請の土臺下や東下に用ひられてある圓い石のことである。

ヴェヌチブル(Ve tibale)——玄関、入口の意。

ヴェランダ(Veranda)——ヴェランダを知らない人となからう。

ㄐ

寄木張——板割が何かで下地張りをし、更にその上に堅木の薄板を色々に組み合わせ張つたもの。模様は依つて値段も異なる。



附錄  
耐震耐火建築講話

### 耐震耐火建築講話

——(地震にも火事にも安全な家の建て方)——

大正十二年九月一日突如として關東地方一帯に亘つて勃發した彼の一大地震並につゞいて各所に起つた大火災は、云ふ迄もなくあらゆる方面に對して異常のショックを與へた。就中我が建築界に與へた致命的打撃は、實に血に依つて洗禮された一大革命を我々の眼の前に齎らしたのである。

曰く耐震火設備の不完全、曰く市街計畫の不備、曰く何々、それ等の缺點は今回の災禍に鑑がみて特に深くその改革の必要を感じせしめたのである。

もとより、此の改革たるや一人建築家の力にのみ依つてなさるべきでなく、要は國民全體がその氣を一つにして盡さない限りは、決して満足なる効果は得難いことと思ふ。

今や、我が帝都は災後の復興に政府を始め國民こそつて全力を盡すの秋に際し、我々の生活と最も密接なる關係にあるところの住宅建築に於ける耐震耐火的構造並に設備方面に關して、所謂

「地震にも火事にも安全な家の建て方」について今後新らたに家を建てやうとなさる讀者の御参考迄に少しく述べて見やうと思ふ。

### 地の破壊力

此度の地震に際して敢て専門家でなくとも少しく注意して見たならば、誰れでも経験することが出来たであらうところの所謂此の地震の破壊力と云ふものが、如何に正直に、而して如何に微妙なる作用の下に起るかについて、讀者の内にも尠からず驚かされた方もあらうと思ふ。

帝大教授内田博士は東京日々紙上に「復興の東京にどんな家を建てませう」と云ふ題下に、地震の破壊力と云ふことについて大略次のやうなことを述べられてゐる。

「地震が起つた場合家を破壊する力には種々複雑した事柄が影響してゐる。例へば同一程度の地震であつても建築物の種類(煉瓦造とか鉄筋コンクリート造)や或は土地の状況に依つて必ずしも一様の破壊力が働くわけではない。地震の強さは、地の動く働きと震動の週期とに關係するので

あつて、通常震度の何分の一と云ふのは或物に及ぼす地震力がその物の何分の一と云ふ意味である。従つて同じ程度の地震でも重いものには強い力が働き、軽いものに働く力は小さい、重い煉瓦造りや土を乗せた瓦葺の家が破壊されるのに軽いトタン屋根の方が耐震的であるのはその家に働く破壊力に著しい差があるからである。

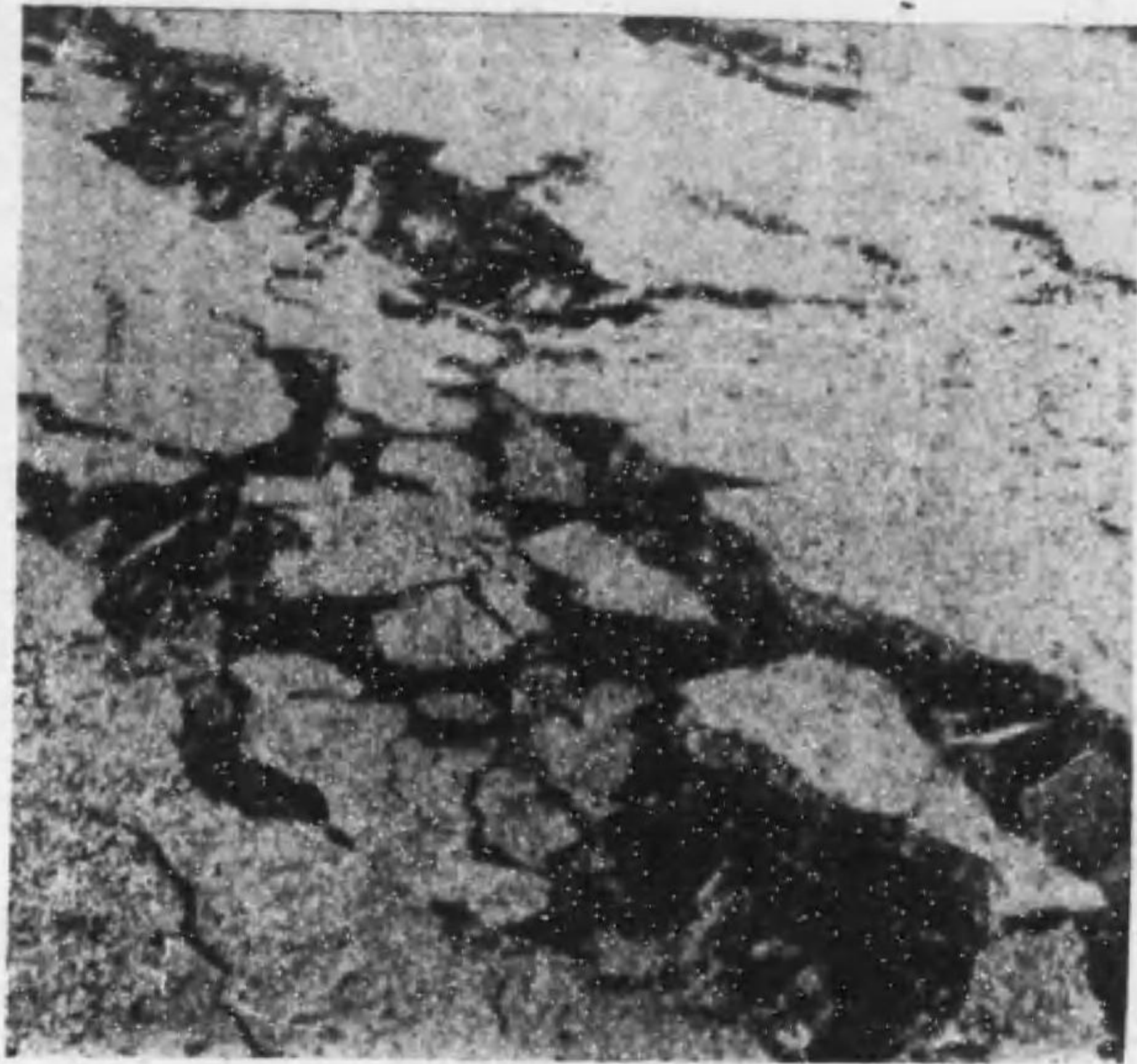
震度は敷地の硬軟に依つても著しい相違がある。また震動の状態が地表面では不規則だが、少し深い所ではこれがないから基礎の深い建物は地表に据ゑた様な家より丈夫である。地割が出来る場合でもこれは比較的浅い場合が多いので、深い大きな基礎の建物はよけて通る實例がいくつもある。堅實な地盤でも崖の端にあたる所は震動が強く、長くつらなつてゐる長屋では端の家が殊に著しい。人家楯比の所では街路の四つ角にある家はこれは易い。木骨石造、木骨煉瓦造りでは、周囲の煉瓦壁と中の木骨とが震動の具合が違ふために互に反撥して破壊力を強める。煉瓦造りや石造の屋根の上にある三角形の突出物(切妻壁)がうしろの小屋組から突き出されて崩壊するのも同じ理窟である。

## 敷地はなるべく堅實な地盤を擇ぶが安全

建築敷地の硬軟が破壊力に著しく影響すると云ふことは、前の内田博士の説に依つて見てもまた實際の結果に就いて見ても明瞭である。即ち此度の地震に於て東京市内でも地盤の悪い下町と比較的地盤の硬い山の手とでは其の震害の程度に著しい相違があるのである。また同じ山の手にしても堅實な地盤のところと、谷合に當る地盤の悪いところや崖端に面したやうなところではやはりその被害の程度に相當の差が起るのである。

云ふ迄もなく岩盤の上に建てられる家屋は、震動が比較的少く、のみならず家屋が一塊として動揺を受けるが、軟弱な地盤にあつては、動揺が殊に激しく従つて建物が或は揉まれたり或は捻られたりして、それがために構造の各部に不等の震動を起す結果、お互ひに衝突し合つて其處に破壊的作用をなすのである。

次に性質を異にする二つの地盤に跨つて家屋を建築することも考へねばならない。若しも建物の一半が岩盤の上に立ち、一半が軟地の上に立つ時は一方が強い力を受けるのに他方が弱い力を受け、其處に所謂不同の力を受けることに依つて建物全體が強い力を受けるものよりか更に危険



たじ生に内市京東て於に震地大東關の日一年二十正大は眞寫  
るあでのもたし示を部一のれ割地

が甚だしいのである。此の場合往々にし建て物が引裂かれたりするやうな例も起つて来る。

次は崖地に就いての問題である。平常單に眺望が宜いとか、閑靜で宜いとかの理由で崖端に家を建てたりすると云ふことは、地震の方面から考へると頗る大禁物と云はねばならないことになる。殊に人工的に築上げた崖などは危険も最も甚だしいものと云ふべきである。崖下に建つ家も勿論危険は免かれない。崖が崩れて家が転倒したり、あるひは崖のために家も人も諸共下敷になつてつぶされたりした例はいくつもある。此の點は敷地の

撰定に當つて特に注意を要すべきところであらうと思ふ。

### 基礎の不完全な家は所謂砂上の樓閣に等しい

家の基礎(あるひは地形と稱しても宜い)、それは恰かも樹木にとつての一つの根である。根のしつかりしない樹木は少し強い風でも吹いたりすると直きに傾いたり倒れたりする。同様に基礎の不完全な建築は風に倒れなくとも(構造の不完全なために倒れることは往々ある)長年の間には色々な故障が生じて来る。殊に地震に遭つては最も危険である。

何程金をかけた立派な建築でも地盤が悪く、その上の基礎が不完全であるならば、いはゆる砂上に樓閣を築くと何等異るところがない。少し強い地震に見舞はれればそれこそひとたまりもなく潰裂して了ふ。家の安全を期しやうと思ふならば、先づ以て何を差し措いても第一番に地盤を研究し、基礎を完全にすべきである。

通常基礎の設計に當つては特殊の例を除き多くは建物總體の基礎に略同様の力を受けるやう

に考へるが、地震の際は荷重の分布が變つて来て出隅とか入隅とかあるひは端に當るところなどになると著しく荷重が増加するのである。従つて地震の場合を考へるならば、云ふ迄もなく間仕切下よりも外壁下を丈夫にし、更に外壁のうちでも前記のやうな隅とか端の部分に至つては一層堅固にすべきである。勿論岩盤上の建築には殊更人工的地形の必要もなければ、従つて地形に對する區別も不必要である。たゞ此の場合は建築物が地盤上に宜くなじむやうにさへして置けば、差支へない。

總じて、建物の基礎はなるべく深く、而して出來得るだけ堅固に築造する程が有效であり、安全である。

### 木造家屋の耐震的設備

凡そ建築はこれを構造的方面から考察すると大略次の三種類に分つことが出来る。即ち第一は築積式建築、第二は架構式建築、第三は鑄造式建築と稱する。築積式——これはかなり古い歴史

をもつた構造法で、御承知の通り小さな材料をいくつも組合せながら積重ねて行くやり方で、例へば煉瓦造とか石造建築の類を指したものである。次に架橋式建築とは木造とかあるひは鐵骨造の如く比較的長い材料を種々に組立て、行く構造のものである。第三の鑄造式建築とは學理上最も進歩した所謂耐震耐火的構造として、最近何れの建築にも應用されるところの即ち鐵筋コンクリート造の如き壁も柱も梁も床も悉く一體として型に鑄込んで造る建築法である。

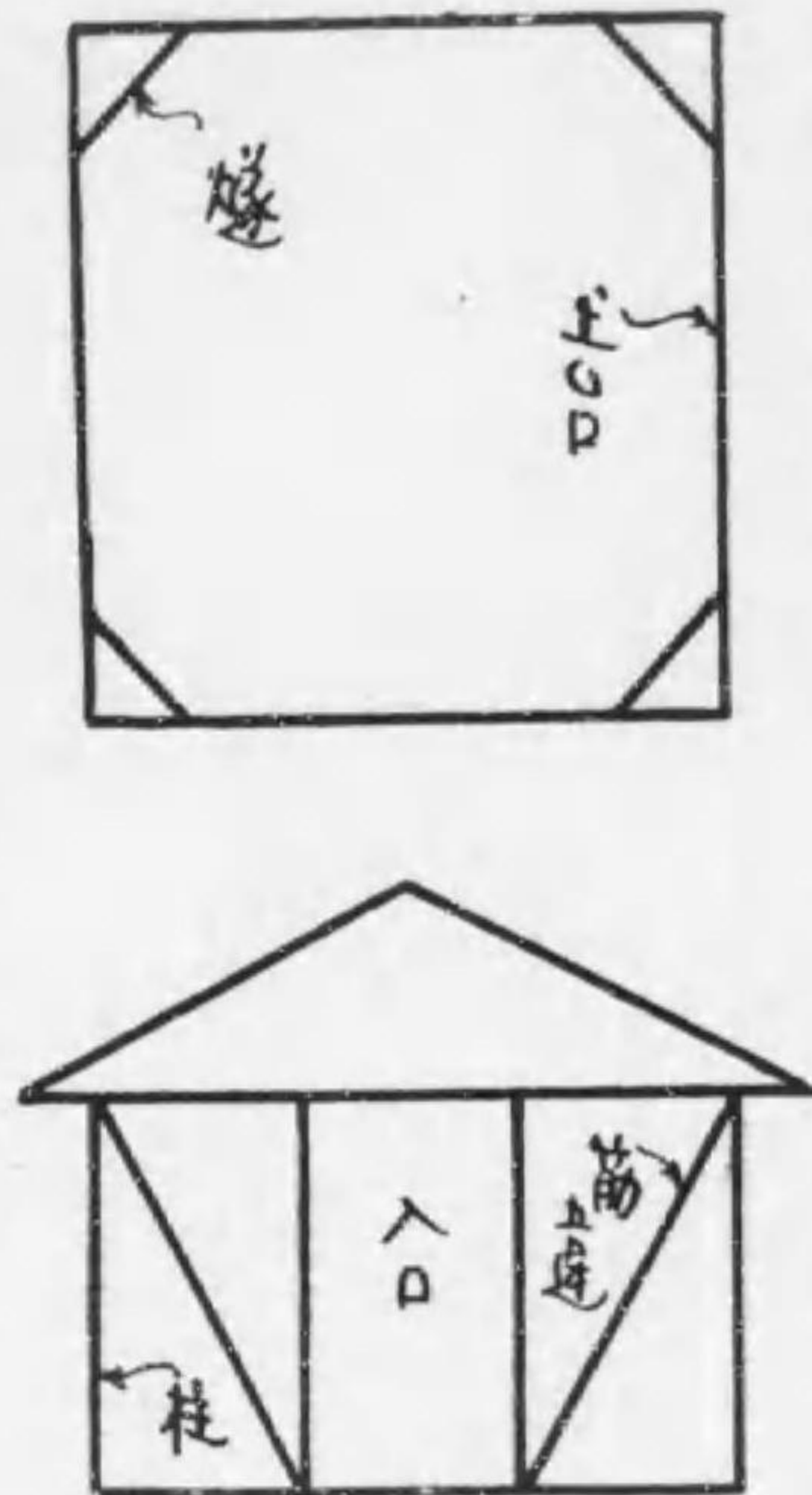
ところで、此の第二の架橋式に屬するところの所謂木造家屋の耐震的構造法として如何なる設備が必要であるか、此の點に就いて少しく話を進めて見やうと思ふ。

元々此の式の木造家屋を耐震的にすると云ふことは、學術的方面から云ふと種々難しい理窟が起つて来るが、要するにその構造の主要部とも云ふべき土臺とか柱とかあるひは小屋組みとか云ふものを出來得る限り丈夫にし、且つ地震に對して凡そ不利益となるやうなものはないなるべくこれを避けらやうに注意することが何よりの對震策である。尙、之等に對する具體的説明を加へるならば、

**土臺**——建物の基礎と土臺との連結が不完全なために、地震の際に土臺から上がすらされると云ふことは往々起る例である。出來得べくんば二メートル位の間隔を置いて鐵ポールの基礎に

植込み、それで土臺を締め付けるやうにしたい。同時に激烈なる震動を受けてもゆがみを起さぬやうに、土臺の隅々は堅牢に差し固めた上、内側に燧ひらきと稱して三角張に筋違すぢがひを入れることが必要である。

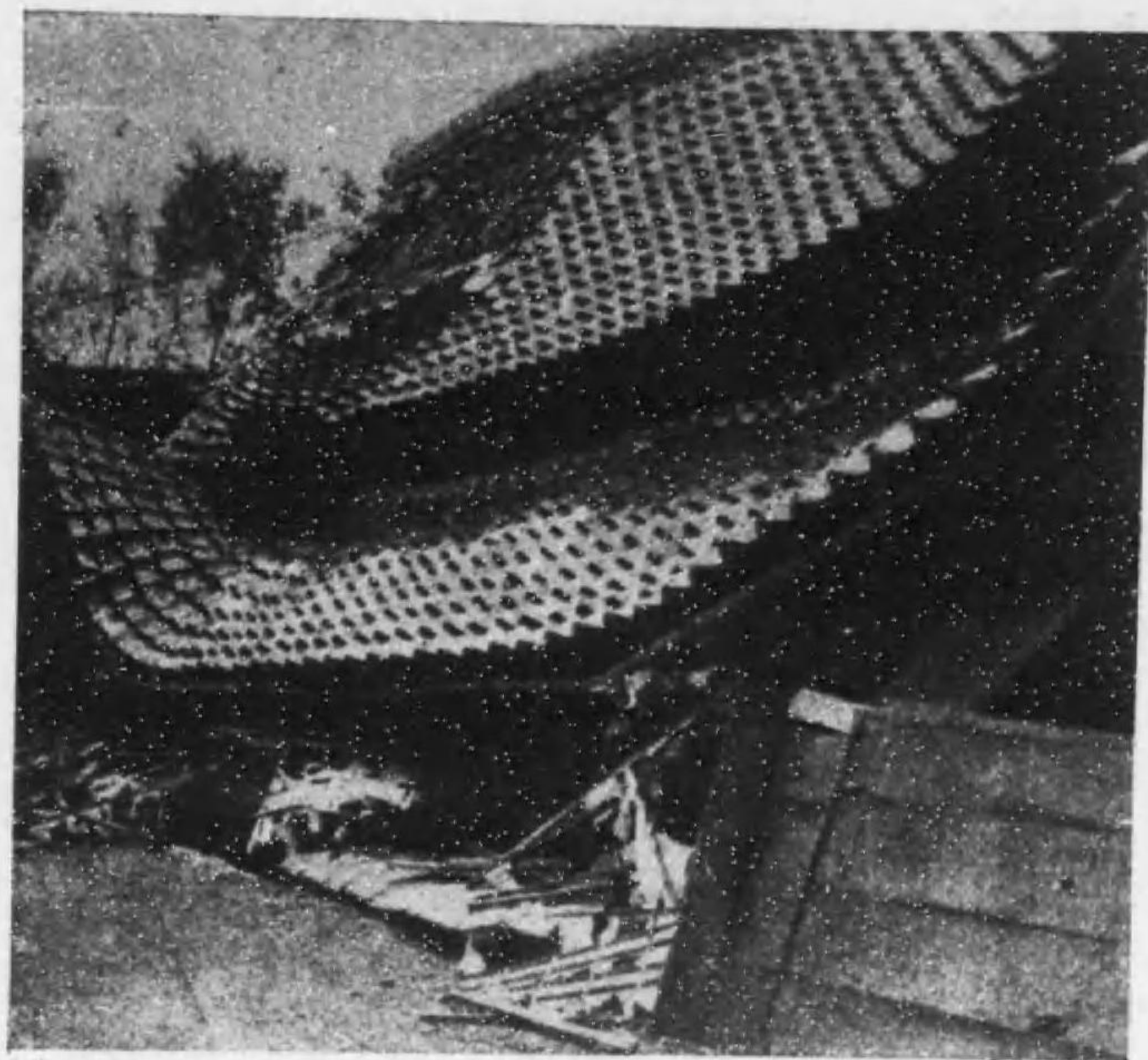
**柱**——材料の險約ばかり考へて寸法の馬鹿に細過ぎたりするものを用ひるとよく失敗する。柱



と柱との間隔はこまかい程が宜く且つ地震のために倒されたり折られたりしないために筋違を入れることを忘れてはならぬ。柱の上下即ち土臺と桁との連結部はなるべく柄を太くし、すべて鐵物を以て補強することが必要である柄は激震の際に兎角折れたり、または抜け出す恐れがある。

**桁**——土臺と同様に内角に燧ひらきを入れ、ゆがみやねぢれを防がねばならない

地震に怖くない家を建てやうと思ふならば、圖のやうな構造法が必要である。すべて四角な空間に筋違を入れ、それを三角形に分つて置くやうにしなければならぬ。



大正十二年九月一日の激震に於て柱と柱との連結部が不完全なために倒壊した民家の一倒である。

また土臺にしても桁にしても繼手は充分堅固に造るべきである。

●小屋——小屋梁は激震の際よくはずれて倒壊の原因をなすことがあるから餘程注意を要する。

梁と桁または梁と柱との結には是非共鐵物を以て補強することが大切である。

●屋根——第一に形が簡單で輕いのが何より有利である。瓦葺の家は建物全體の構造にもまた瓦そのものゝ葺き方にも餘程注意しないとしくじる。即ち一度激震に逢へばさなきだに重い屋根が活荷重と

して働くので、軸部を鈔からず壓制される。若し此の屋根を撰むならば軸部は充分に堅牢にして置かないと往々瓦をすり落されたり、あるひは倒壊の憂目を見たりする。關東震災後の復舊話の一つに瓦屋さんがさつぱり閑になつて鉄力屋さんの仕事にはかに忙しくなつたと云ふのも一般が瓦葺と云ふものに對して一種の怖れをなし、此際亞鉛引その他の金屬板葺に模様替しやうと云ふ瓦が増えたからと云ふ理由からでもあらう。が、しかし、瓦葺も前記のやうに軸部がしつかりしてこれに今日改良された引掛棧瓦と云つて、屋根板の上に棧を打つて置いてその上に引掛けて葺いて行く瓦を用ひるならば大した危険でもあるまい。尙此の外に被覆材料として地震にも火にも比較的安全なものとしては、スレートや石棉板の輕いものを用ひるか、金屬製の薄板等で覆ふのが宜しい。勿論このスレートにしても金屬板にしても火が近くに起つた場合は往々にして割れたりあるひは熱せられて其の下を焼くやうなこともある。

●二階家——二階家を建てる場合は出來得るだけ階下よりも小さく、而かも一方に片寄らないやうに造るが安全である。同時に二階には餘り過大の重要な物を置かないことである。

●間仕切——間仕切の有無あるひはその位置間隔が地震の際の抵抗力に著しい影響がある。餘り大きい部屋を設けたり無闇と壁を減らしたりすることは大いに危険とすべきである。木造住宅が

他の木造建築に比べて比較的震害の程度が軽いのも一つは此の部屋の小さいのと、且つ間仕切の多いのと、軒の高さの低いのが此の場合大いにあづかつて力ある譯である。總じて間仕切はなるべく密に且つ家屋を横断して連続的に造られたのが、耐震上最も有効である。

### 木造家屋に耐火的設備は不可能

在來の木造家屋を耐火的にすると云ふことは何う考へても不可能である。せいぜい注意して設備して見たところで、比較的類焼を防ぐと云ふに過ぎない。そこへ行くと同じ木造でも西洋風にして周囲の壁を漆喰などで塗つたものは前者に比べて地震にも比較的強く、火事にも若干耐へることが出来る。が、しかし、これとても勿論耐火的と云ふことは望まれない。たゞ外部からの火事に對して日本家屋より僅かに耐火性を帯びてると云ふに止まらない。

此の外に木造建として外部に鐵網を張つて、これにコンクリートを塗りつけた所謂鐵網コンクリートと云ふのがある。これは前二者に比較すれば遙かに耐震的でもあり、防火的でもある。強

ひて木造家屋の準耐火的構造として擧ぐるならば、目下のことでは此の鐵網コンクリートを措いて他に適當した構造法と云つても見當らない。

### 地震國には煉瓦や石造の家は危険

火災と云ふことを除いて、單に地震のみに依る被害と云ふものを考へたならば、此度の震災に當り各種の建築物を通じて直接被害の甚だしかつたのは、何と云つても煉瓦と石造建築であらう二つながら殆んど無抵抗にも等しい惨めな壊れ方をしたのがかなり多かつたやうである。

之れは理論上から見ても當然のことであつて、即ち兩者共建物自身の重量が頗る重く、従つてそれに働く地震の破壊力と云ふものが非常に強いにかゝはらず、何れもその大切な構造部に缺點(曲能率に對する抵抗が至つて薄弱なため)があるため、謂はゞ建物の破壊力に對する抵抗力が極めて小さいために、自然被害を大ならしむるの結果を見た譯である。

であるから、地震の多い日本の土地としては、今後住宅その他の小建築にして而かも耐震と云



ふことを念頭に置いて設計や施工に充分注意したものゝ外は（此場合建築費の増加は免がれない）煉瓦若しくは石を以て主體とする建築は地震に對して最も弱く且つ最も危険なるものとして寧ろ計畫しないが何より安全である。

### 地震にも火事にも安全な鐵筋コンクリートの家

耐震耐火何れの方面から見ても一番安全なのは云ふ迄もなく此の鐵筋コンクリート建築である。これは此度の震災で他の何れの建築にも勝つて成績が宜く、設計と施工さへ宜かつたならば、地震（此度の地震位には）にも火事にも全く安全であると云ふことが立派に證明された譯である。今後經費さへ許すならば、是非共此の鐵筋コンクリートの家を建つべきであらうと思ふ。

鐵筋コンクリートに次いで成績の宜かつたのは鐵筋ブロック構造である。此の鐵筋ブロック構造は前者に比較して工費も幾分安く、施工も比較的容易であると云ふ點から今後の住宅向建築として正に理想的構造法として、ひろくお勧めしたいと思ふ。

### 理想的田園都市を造れ

此度の震災に鑑みて痛切にその必要を感じしめたのは、建築方面の耐震耐火設備の理想的田園都市の出現である。

云ふ迄もなく地震や火事のことを考へると、事務所も住宅も一つ残らず潰れず焼けずと云つた鐵筋コンクリート構造にするのが理想的であるが、さりとて今日の民富の状態を考へるならば、これをすべて鐵筋コンクリート造にすると云ふことは到底言ふべくして行はれ難いことゝ云はねばならない。

此處に於て自分は今後所謂商工業地區と云ふものと、住宅地と云ふものを全々區別して、前者は全くの耐震耐火地區として理想的たらしめ、後者に於ては前述の理由からして依然木造住宅を以て止むを得ることゝし、その代り公園とかあるひは其他の適當な防火装置を施して出来るだけ火災の漫延を防ぐやうな方法を講じて、兎も角も今回の震災に於ける彼の本所被服廠跡の如き

懐福を再び我が歴史の上に繰り反さないやうに努めたく切に望むで止まないものである。  
それには是非公共交通機關の完備と共に此際理想的田園都市の出現を痛感せざるを得ない次第である。(大正十二年十一月稿)

新日本の住家

定價 參圓貳拾錢



大正十三年四月五日印刷  
大正十三年四月五日發行



著者 芹澤英二

發行者 北原鐵雄  
東京市小石川區町九番地

印刷者 山本源太郎  
東京市小石川區久堅町四十五番地

發行所 東京小石川一〇九番地  
聯合會社  
アルヌ  
振替東京二四八八八番

# 水彩畫の描き方

三宅克己氏著及畫

## 著者の蘊蓄を傾倒せる最善の水彩畫手引

本書は我邦洋畫界の重鎮、水彩畫家の元勳である著者が自己の筆になる水彩畫を原色版の挿畫として、總説、眼の養成、靜物寫生、記憶力の養成、風景寫生、水彩畫法の種類、普通の描法、部分仕上描法、濕潤描法、浸水仕上の描法、房揚子にて描く法、チヨーク畫淡彩法、人物畫法、裸體畫、日本の風景、野外の寫生、外國にて見た水彩畫、寫生畫の説明等總にわたつて詳細に述べたる、初學者にも分る最も平易な一般水彩畫法で、他に得がたき名著である。

水彩畫原色版十一葉・寫真版二十餘圖

定價貳圓・送料七錢

圖解本位

# 新住家の設計

橫山 信 著

挿畫・寫真版・凸版凡て百六拾有餘

建築の實際を知るには、實物を見るに如くものばない。本書は英米獨の小住宅乃至中流住宅數十種に其範を取り、外觀は寫真により、間取は平面圖によりて示し、一々詳細なる解説を附して實物に就くと同一の効果を與へた。而して今後日本に於ける新住家の改善については代表的の實例數種を擧げて之を批判し就中重要な煙房、便所、臺所の設備について説述最も懇切な極めてある。尙今回の大震災によつて、どんな家屋が一番安全かといふことに就て、著者は各被害地を實地踏査し、一々その實例を寫真によりて示し、その様式構造を仔細に解剖し今後の住宅建築に對して重大なる斷案を與へてある。

附錄 耐震耐火の建築實例

定價貳圓八錢・送料七錢







513  
258

終